

河内名所圖會



河内名所圖會卷之貳目錄

石川郡

- | | | | |
|-------|-------|--------|--------|
| 金剛山 | 千劔破城址 | 東條川 | 本不見山 |
| 赤坂城址 | 小根田古城 | 水分壘 | 建水分神社 |
| 楠氏箕趾 | 壽子冢 | 身方冢 | 楠正成聖古蹟 |
| 佐備神社 | 傳備溪 | 咸古佐備神社 | 大素美七塚 |
| 咸古神社 | 龍泉山城址 | みん屋 | 龍泉寺 |
| 水城嶺 | 饒鴛山 | 鴨習神社 | 明王寺 |
| 光明寺 | 大師井 | 石川 | 寛弘寺 |
| 壹須何神社 | 大伴支那塚 | 富田林 | 隆幡向 |
| 弘川寺 | 地蔵堂 | 規櫻 | 興正寺 |
| 西行上人塚 | 大黒石 | 五葉松 | 淨蓮寺 |
| 加太墓 | 奥院 | 笹花泉 | |



福林院

和雨池

加納法善堂

久米石橋

大所憩石

大所堂

平石古城

安川井

鶯園

抱叢

名壽金剛鑽

科長神社

二子冢

津彦石

下水分社

地藏堂

磐船祠

高貴寺

寶藏院

大所水

鶯陵

古松登巖

不動石

山田齋墓

寶海寺

櫻井

梅川

河上嘯嶺

鐵堂

戰死塚

燈明橋

鹿谷寺廢跡

礪岩

烏帽子石

妹子大冢塚

親鸞聖人懸掛石

粟池

白木觀音

葛城山

岩橋井

獨鉈水

善成寺古蹟

竹内嶺

山田窟

二上嶽

万法庵院廢跡

推古天皇陵

名壽榮根 苗卷

河二 壹一

妙見寺

牡丹窟

石井皇后墓

石川名良故居

磯長山寂福寺

上作殿

鎮守九所推現

石塔律院廢跡

西方尼院

馬子大冢塚

竹良卿墓

春日神祠

佛眼寺

石川郎女故居

上太子

結界石

津土堂

兩帝廟

骨堂

南林寺

吉繼墓

用明天皇陵

海老家

高屋連墓

廟中碑文

多室塔

常光院

兩門院塔

燈臺石

赤井

善日佛師故居

敏達天皇陵

石川名良故居

墓誌

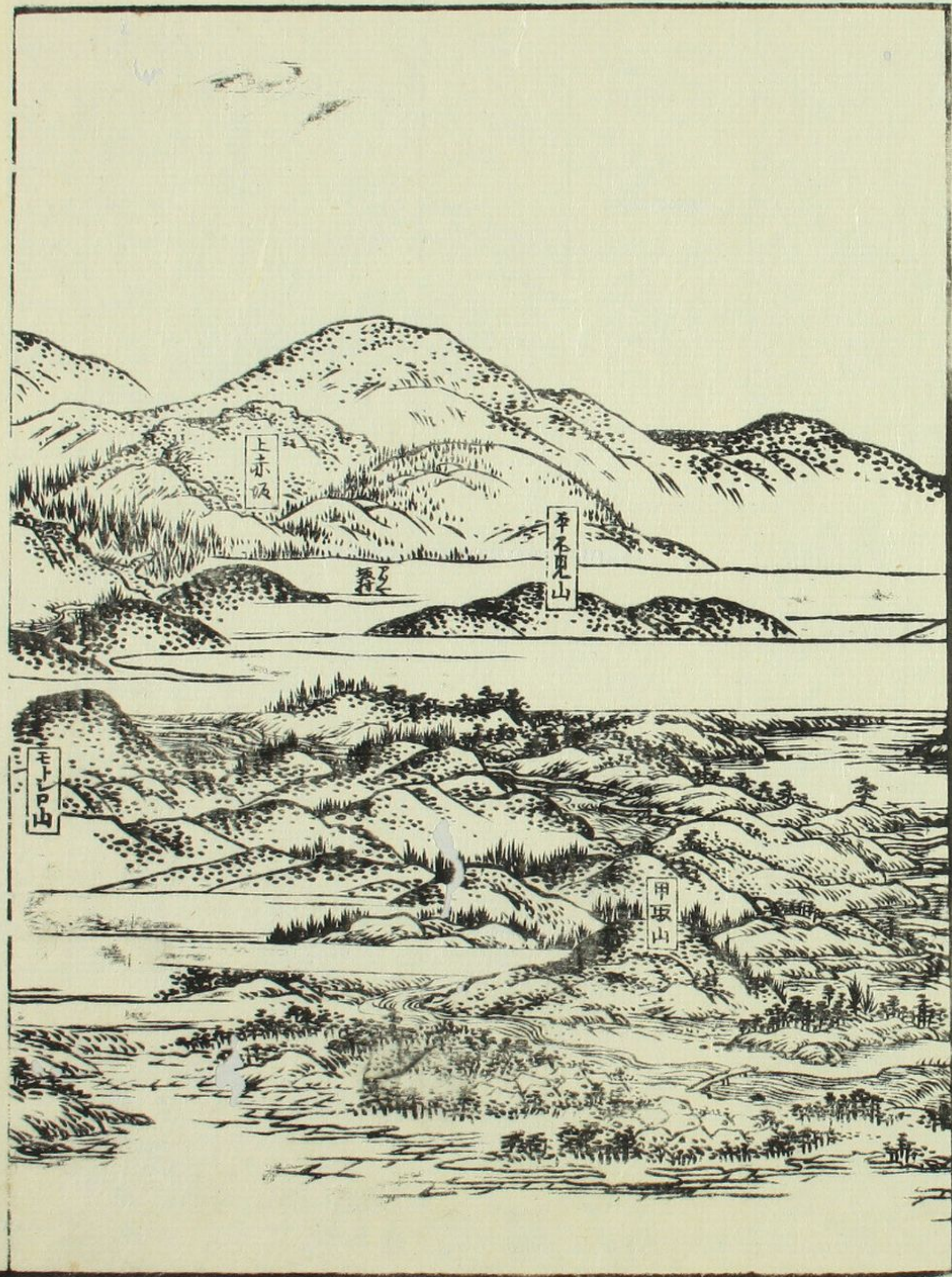
大桑木

忍性上人塔

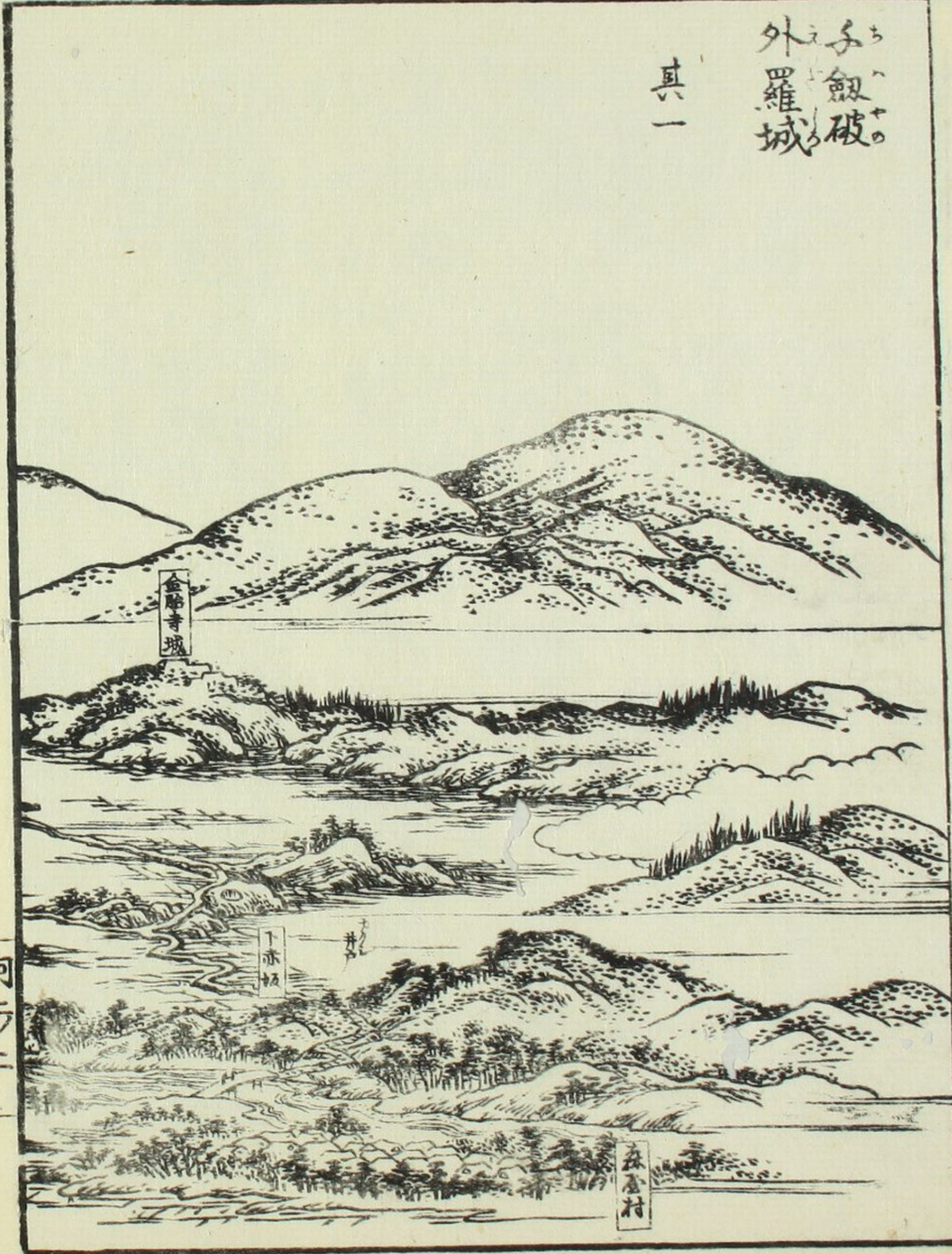
不初石

中門古礎

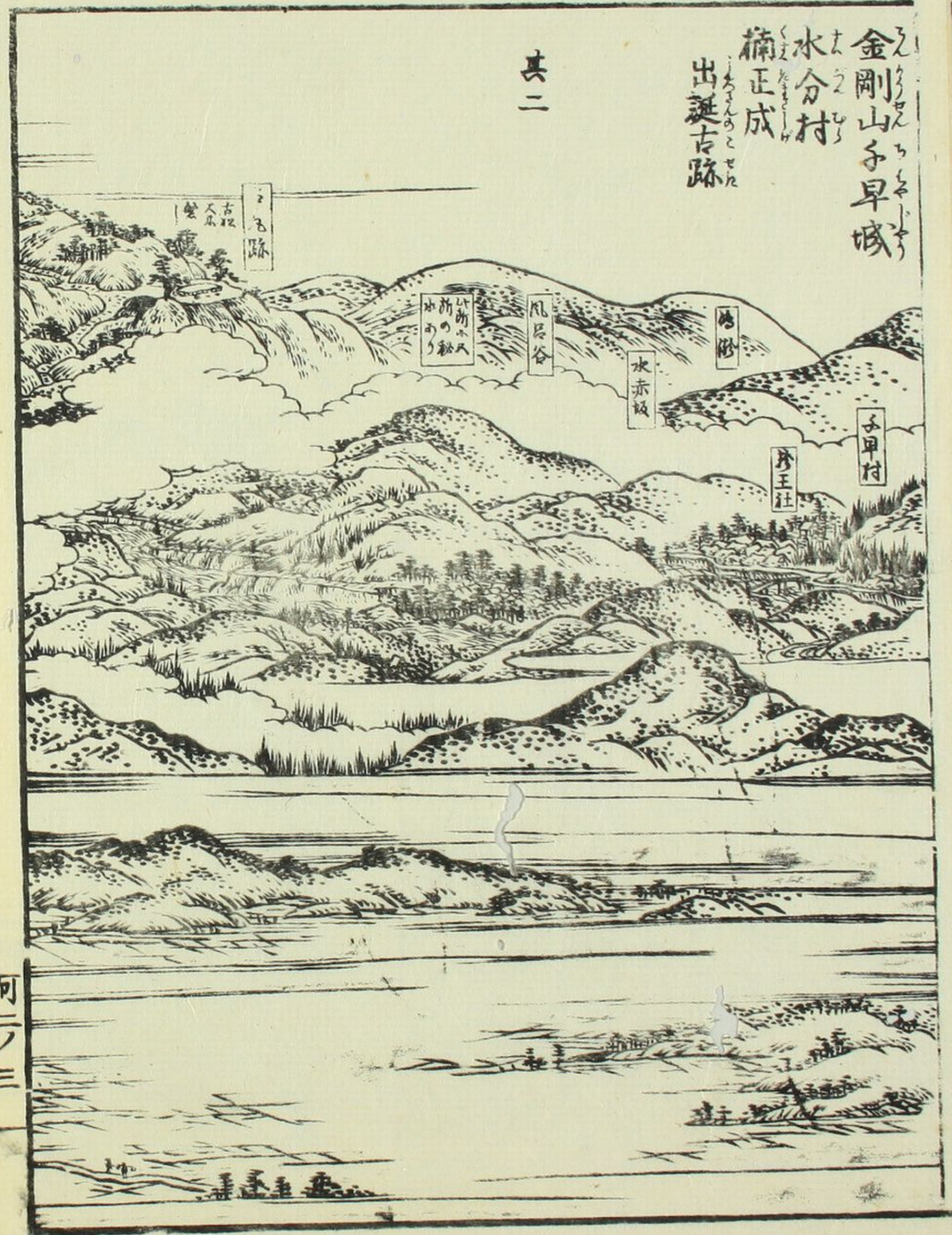
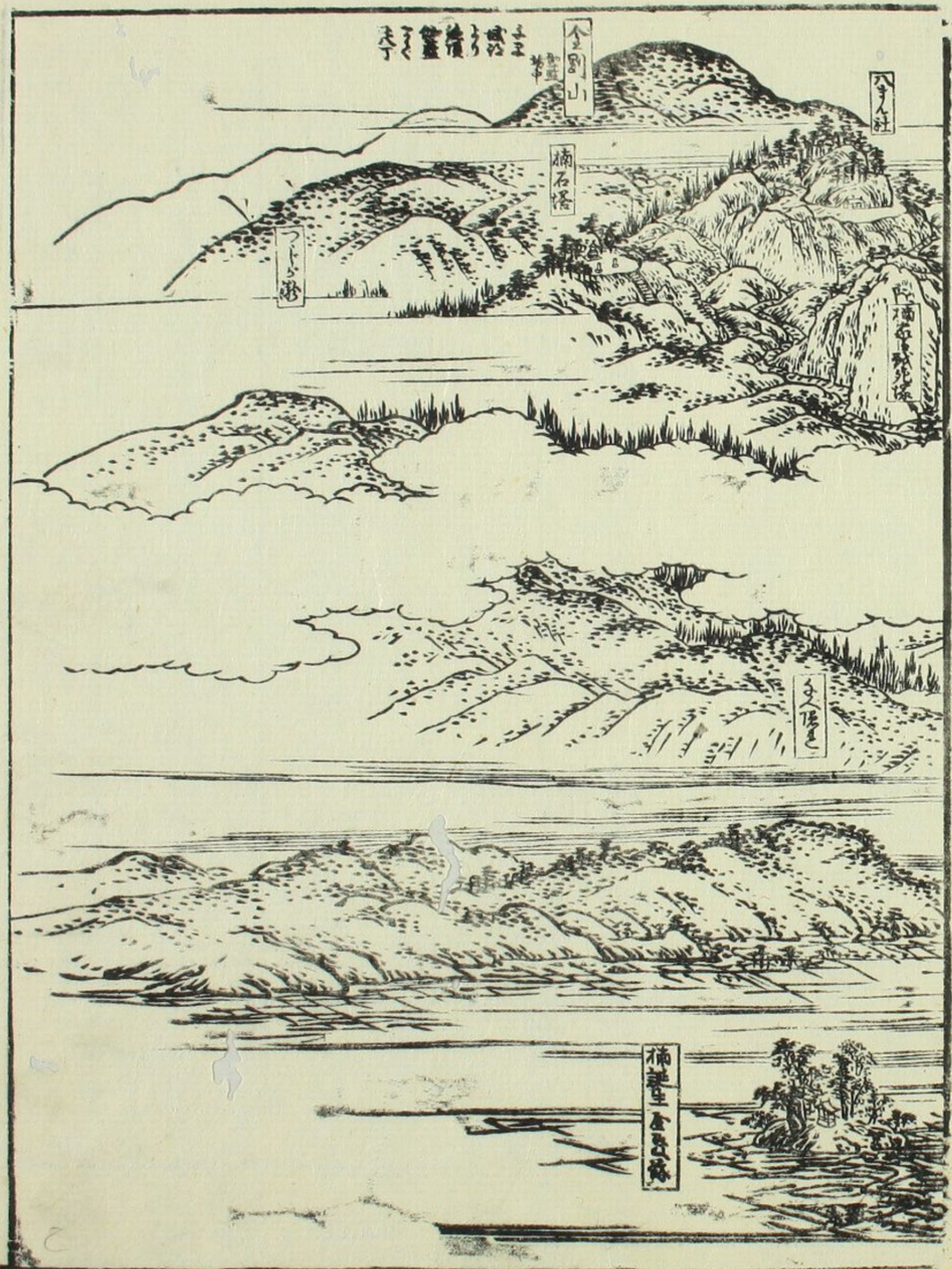
施茶院回踏



外子
羅城
其
一



河
三
二



石川郡

全剛山

石川郡 東嶽郡北河内郡西河内郡并河内郡の二郡に至り
 全剛山 石川郡の東南にありて石川を跨ぎ山の本道より登る者百四十町中達五
 北にけしき山園の島山四方にありて巒微者なりて中
 精舎ありて法論寺寂上宗院といひ真言の宗場之本尊は法起菩薩不動尊
 藏王権現俱長七人のく役優婆塞の他をせむかか之黒堂の号なり弘法大師の
 長衣額系所遍照心院南谷の茅之行者堂といひ此長衣を協わし鎮守也
 二午所の神祀を存財之女神といひ堂園伽井あり名泉ありて四時湧減あり十二
 石塔婆あり水引福ありといひ之黒堂の形ありてこの名あり東成大和河内と云
 嵩山伽藍の圖といひ和名所圖會ふといひ坊舎のみを本園と云ふといひ之者坊舎
 法泉ありて之の行者ありて湯成法く学寮といひ之を室坊行者坊實相坊
 長衣坊といひ寺坊朝原寺の二坊といひ和國之集者子堂を本堂といひ十八所ありて
 水多下る路傍ありて藏王権現あり古く巍々たる今も草堂といふ所頂嶺成
 之日嶽といひ本堂の北の方之園見山の坊中の一は所當の傍地ありて魏乎遠を

河二四

まればがしてるや浪の浦大江の島ありて油取の方より西宮を
 稻岬一谷といひるはせし酒赤石月影あり淡路嶋山阿波の海紀の海
 茅渚の浦をまてりといひて之をともてりて之を元弘の古城といひ楠正成
 東軍と直下小見ありて考を慶の計とありて之を考と樹を深とて二仗の
 夏も炎暑と云へぬ御極花の卯月の末雨と村を時とかや實は仙境に至る
 のといひあり正成といひをて皇居といひて南朝の社稷を興へて天下を統一統
 計といひありてふや畿内第一の要津といひて嶠函の帝王の宅を洛の王者の邑と
 左思が蜀都賦に書きし地を比せん

子甲城址

子甲城址 全剛山の半腰 山海巍然として四圍の溪谷を東へる又西へ七拾八丈
 南へ拾八丈北へ二十丈東南の園は一徑ありて坂海嶺といひ全剛の山を攀登る者
 廿八町中途小園見山ありて元弘中廷尉正成築所ありて四方成樓十七所の根城といひ
 まつた守の蹟を一歴ありて古松之様をまてりて本堂ありて古松ありて
 本丸二丸の跡の礎石多く構のありて古松之様をまてりて本堂ありて古松ありて

されば小畷五所の秘水の跡は城址のありありなる昔を封じ本葉煙を
 其所鮮るに推す案内さき崎廻る路とせりて乃ぬ風呂谷と云城の時
 停水獲て取らるる水と徳所へ東軍かけつて其の標成正成
 策と相く新と後徳住を火夫とのて焚落し教子の軍と滅し其跡を
 かの方々の城の守護神八幡宮の祠今も存する楠石塔を丸の跡に築あり五輪
 舟の南朝天板六半庚申正月七日有る所捕正成は銀瓶城内に入り且外軍車
 病死八十一歳小光も勇武義勇大居士と号し其の遺骸は地蔵に葬る
 城死跡躑躅籠城山の良嶼飛龍山の南の方あり共々高十餘丈樹々の間飛流
 しく幽寂る地なり早村あり和修若龍王と云く生土神と例する九月九日多門
 寺の毘沙門天を千甲の城門に鎮座するを都く山崎と云く一遺蹟あり
 の要渡へ國貞山の壘楠正季小根由城正母將監若山の堡楠正成母の志將
 猫谷の若藤崎の弟まみみ水の上ありて早の藩屏と儲り義兵傑と
 城島に籠り正成諸葛亮軍術を慕ひ胸小八陣成勝と我闘は後には
 車か今もひり功名一時の最と云く城址若藤と云く晋乃羊祐と

随波の碑も異なるに

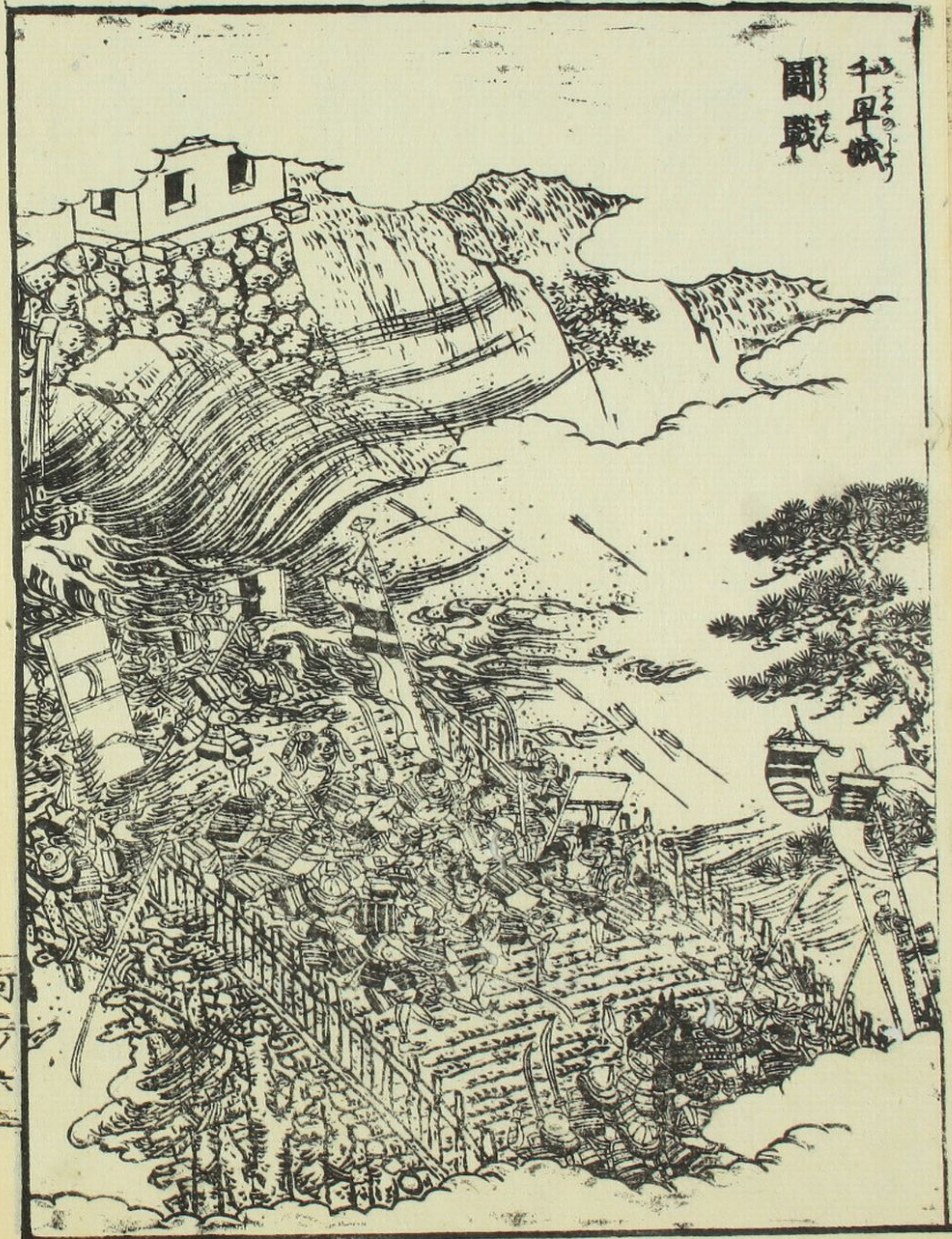
本不見山

東坂村あり東坂村より二十八町上方に里説云ひ一教小漏出し一高
 あり平地堂あり十一面觀音長八尺そすと安け平等院と号す

赤坂城址

上赤坂村の上方金剛山の半後ありけ古城の南方と山嶽
 小麓て東南の方斷崖高サ二百尺北に一徑と通後延尉正成と云

兼子園東八十萬騎の軍圍攻を車教日之徒とて楠氏少
 し屈せば籌策と帷幕の中ありて釣燭熱砂あり岩石落し
 計成とて軍と亡と車教十萬騎並置の官兵利あり後赤城
 小建を援をか一故正成伴と自殺と見せ城小火と焚て赤城
 遁と去る其古跡今も然と云く一本戸甲取坂軍馬み嵐と
 防た一屏風家着林出會といふ楠の志士と云く出合東軍
 と引包と攻し所へ王院の御所といふ主上あり車駕あり
 めぐとせり一所の仮所のみ其馬場と土人がいぬがごとく今



千早城
圖

河二六

み字ふはとらぬのひがふふの井とらぬ名案あり正成が隠し水と

ふ門く今ふ清冷ありて涌出ひりし小室と度

小根田古城 二の系郡村ありて正成が計り會て六條の末より謀せり

東條川 水瀬二流一の水瀬ありて千早漢といふ二流俱り

唐櫃測 水分神祠の東あり

建水分神社 水分村ありて追村都く十八ヶ村の生土神といふ例系九月十五日延喜式出又二代實録云貞觀五年八月授正

五位下同十六年二月授正一位 南朝延元二年四月授正一位 南朝延元二年四月授正一位 南朝延元二年四月授正一位

南本祠 奉社のたあり 後醍醐帝勅ふり門く正成乃靈灰

龜井 關伽井 信ふあり

馬場室觀音 定朝の御長尺をす神守ありて神社伽藍魏々

今二箇箇ありて縁信あり

谷堂 本尊十一面觀音長六寸容石の能く

神宮寺 赤城の御念ふあり

水分壘 赤城の御念ふあり

楠正成誕生所 田圃の中へ將軍御あり今が二間の旧跡を遺る

楠氏第趾 下赤坂城門の中へ又切山村あり

寄子塚 身方塚 俱小赤坂村に味洲あり正成故味方死の者な懐く

大赤坂七塚 赤坂村の東あり信小白山神祠立りて曆應五年の末伊藤

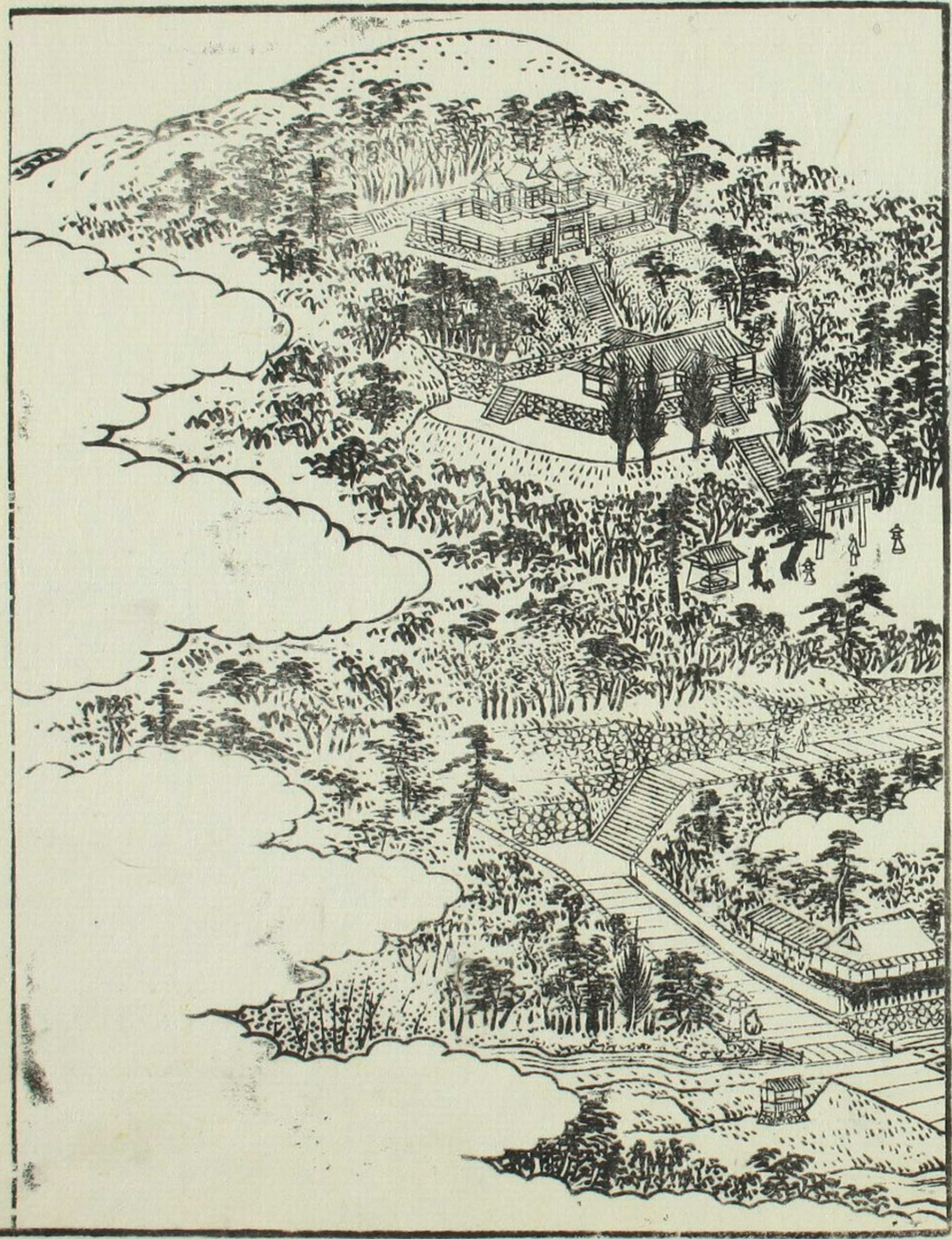
先帝の勅使ありて異形の姿を現し一と云く後七と

佐備神社 佐備村あり延喜式出ひ地の生土神といふ上果文曰内園石川

佐備溪 山源中津系小吹より出く龍泉依依を巻く

咸古佐備神社 山源中津系小吹より出く龍泉依依を巻く

生土神といふ



浦正成社
上水分社

河二ノ八

森屋村

歌塚

味万塚



河二ノ九

牛頭山龍泉寺醫王院

龍泉寺村あり

牛尊藥師佛

聖徳太子所化長そ又入寸

毘沙門天

牛堂不安に龍泉寺城

鎮守咸古神社

整敷

今牛頭天王と社に牛堂の後あり延喜式内記

不初尊

牛堂不安に弘法大師の化

草駄天祠

各財天祠

西の方池の中鎮座に

それけ寺ハ

推古天皇二年獲我馬子大臣勅と受くま小餅字と常ん久持る耳

悪龍池中

小樓々々人民と悩及馬子神咒と誦く事一十七日悪龍威験小怨れ

け地と飛去

以時水個々事十餘町帝あみ枕利と建く十二頭王と架り

群類と利せん

以厥后次第み水極多々護るる人々空々荒廢に弘仁十一年

正月八日弘法大師あみ

加蓋の荒蕪と嘆れ若女龍王と云又各財天と觀待

龍池と埋く

精舎を再管くやん於茲淳和帝勅く正二位中納言を緒口瓜

身仍く

勅預さくありぬ有爾密風域内を傾く再以宗儀繁榮に若女存多の

橋の辺に龍燈がなほ寶義系家と初々目々土祿の供とあり申上り塔は若く
 月々々兩部のはと塔と水肥く耳落の味氣は
 鎮守神祠室を其の師書造の經疏佛儀多し子院其寺是建つる今ふと味の
 古蹟と清住坊といふ教堂あり眞如法親王の室とをほはせ給ひしふ

かくそらうに建磨を志れる君をこれ陀多調をまきくいけるそらうに
 一盤石あり靈水あり其上に涌き其下は南の井筒あり又師八竜標してまきく
 まれ地を旱夫大雨と縁ふ験ありあり付出の平き空内定花は三預ありし時

十あり二のちうひきうてみうけふあひうるとし一は 定若は

右當山の寺記いひしうり傳うく其まは正二位資順卿畫し

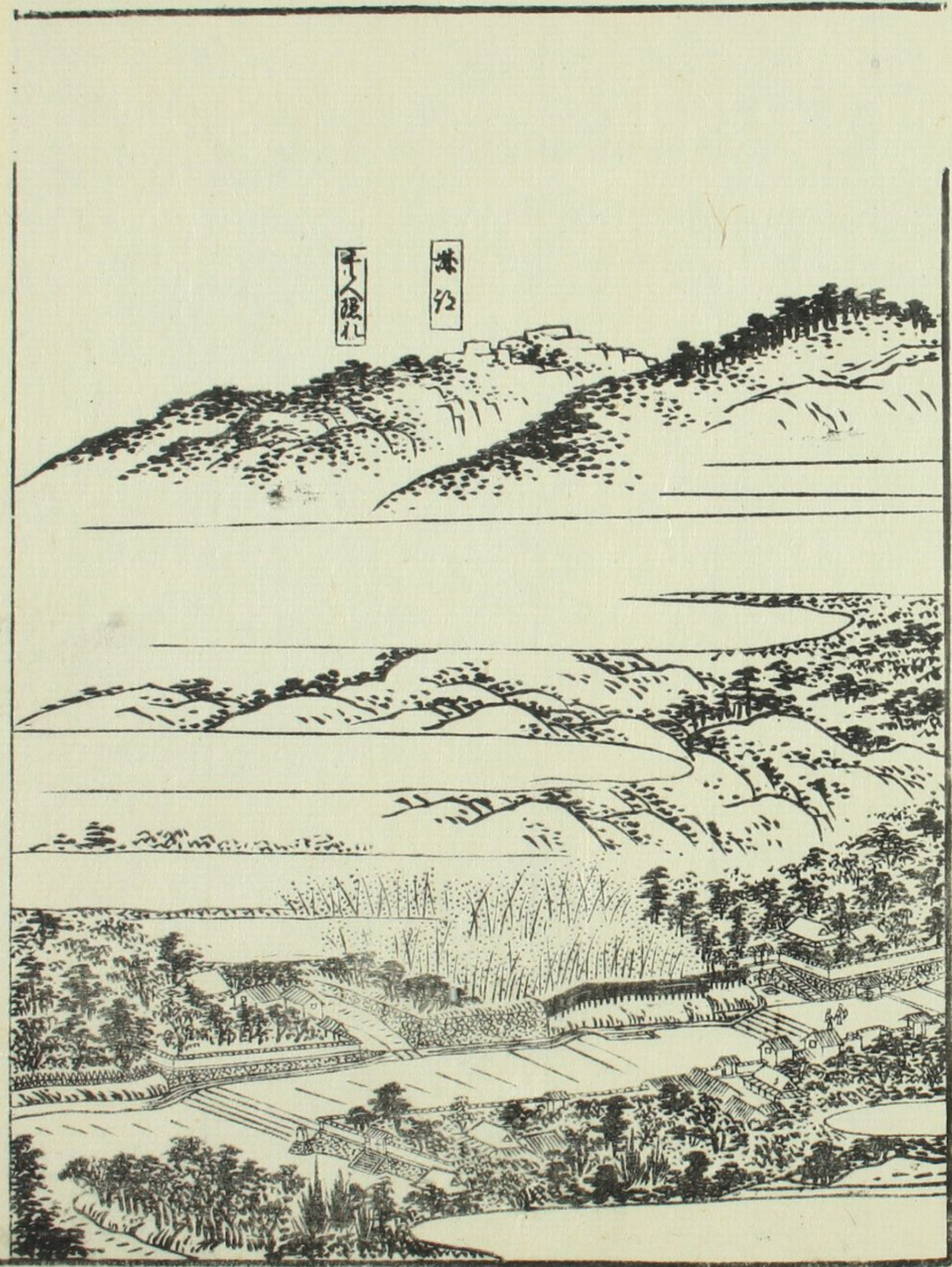
龍泉山

龍泉の山上あり山頂四方四町計の城地あり威徳あり
 正儀和田正武ありに據り南方の剽奪とん又寛正に年ま島山
 義就まくに着る

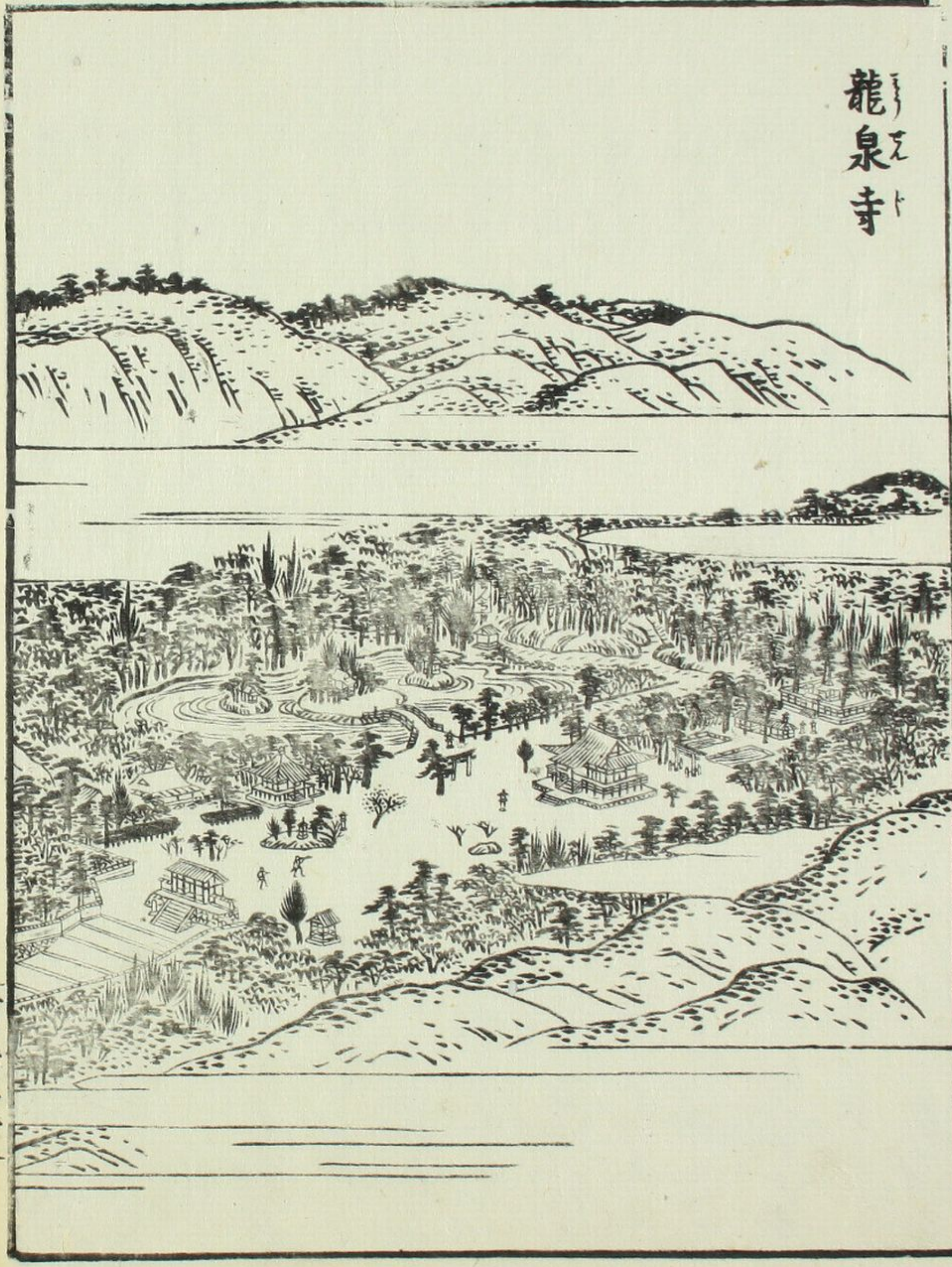
龍泉の城あり和田楠等相謀く初は河内の兵一千餘人戎龍
 置しりたる奇も敢く是と責んしとせしりたる同かくては従ふ規と

是てもいふせん抄教しこそ軍軍あたらしく龍泉の勢とみかば下しこそ
 もさた世伏とも而人計を見おき環しあのかかこさ瀧の端に旗とあり
 ゆひはけあるえ勢の巻る体とせしりたるは山の妻とこれとんくアチ
 四方より立ちるところ山はけ又勢のこのつたんといふ鬼神といふ攻め
 したるの是非とさるといふ恐れと攻めといふ人をもくといふは従ふ旗と
 百數十餘目とみたり或時土岐信康一揆の中は生才賢ありくろ老武者龍泉
 城とほくくと守居たりたり其軍勢を藉て曰大公子兵書の壘虚篇の望其
 壘上飛鳥不驚和歌詠而為偶人とことしてはに日相迫く龍泉城と
 日るふふふふ者林かろ鳥名も鷲もかろ様ままといふ又勢の巻る体
 とせして旗とらうとあかこさ立垂るると賢ゆるといふやん々世の勢と交れ
 け一揆とらう向く龍泉と攻めしと下の橋敷と備人と云々は信康一揆
 の軍勢六百騎ありをゆりしとて同しとる

お歌おのしとや他をかへし一の部



龍泉寺



河

龍溪山明王寺

龍溪山明王寺 龍溪山明王寺の傳云は地錦郡都那の界内と云

本尊不初明王

本尊不初明王 傳云弘法大師龍泉山修行の初園家平安の祈禱と

と堂壇といふ事なる延文のころに將軍足利義隆公龍泉山と改め

其法廟應の龍泉山鎮守國政等崇山のやうに小玉張り長陣

の巻の奥に云干時廟應寺一季秋初九日於日野村嶽山西陣不初堂

源朝長國政云云 鎮守 白山権現慶長五年

水越嶺

水越嶺 水越嶺の上あり又和街道と云云補正成り也

鷺鴉山

鷺鴉山 神山村ありけり不初明王と云云十一面觀音

鴨習神社

鴨習神社 日村ありけり延喜式内

寛弘寺

寛弘寺 村の名に日堂あり又馬場地蔵と云云

光明寺

光明寺 日野月村あり又村の名に十二月晦日と云云

大師井

大師井 南別井村の官寺あり本寺梅樹正觀音を祀る

石川

石川 東條西條の二作あり村あり

防備神祠

防備神祠 大友村あり大友村大友山城等の生土神あり

壹須何神社

壹須何神社 一須何村あり延喜式内今天神と稱し

大伴土俵塚

大伴土俵塚 南大友山中田の岡あり相傳ふ大伴

富田林

富田林 都賀の地あり一富田と云云

本尊阿彌陀佛

本尊阿彌陀佛 本日の他長之尺許彌陀佛を人直向の

興正寺

興正寺 興正寺の輪番あり

其味休小

其味休小 其味休小の耳美之葡萄酒は地の名産と云

名産葡萄酒

名産葡萄酒 名産葡萄酒の栽培は相傳ふ多く

其味休小

其味休小 其味休小の耳美之葡萄酒は地の名産と云

本尊阿彌陀佛

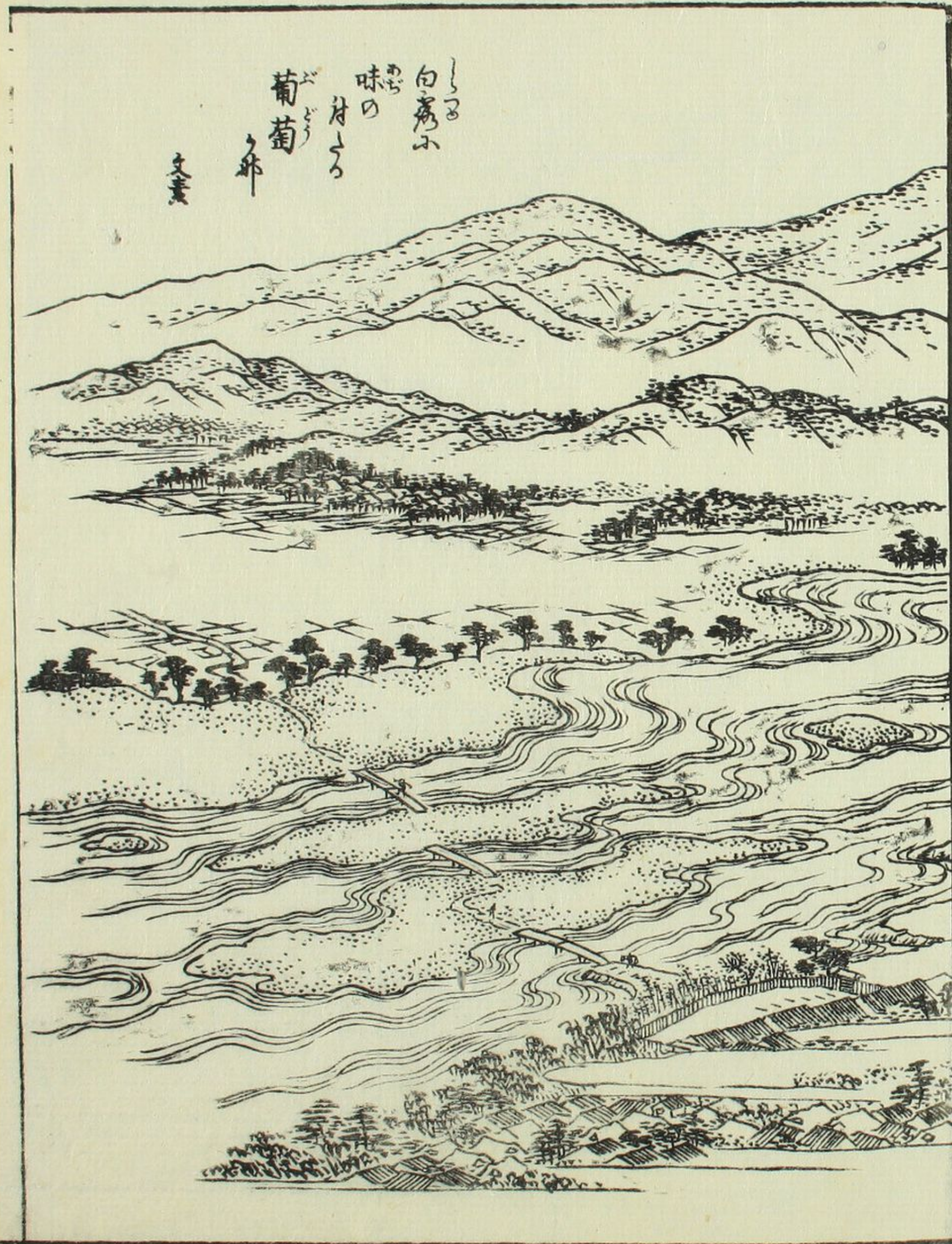
本尊阿彌陀佛 本日の他長之尺許彌陀佛を人直向の

興正寺

興正寺 興正寺の輪番あり

其味休小

其味休小 其味休小の耳美之葡萄酒は地の名産と云

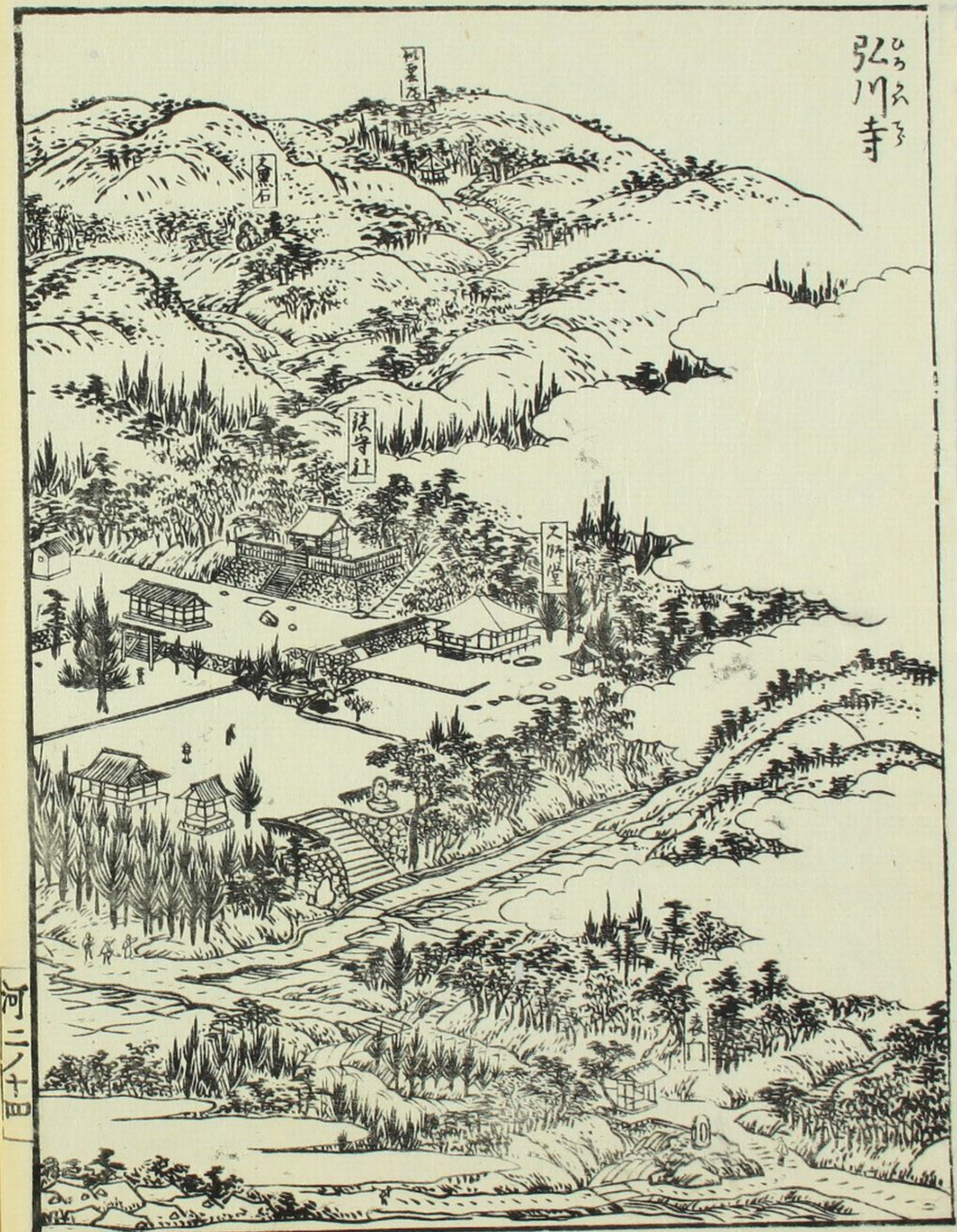
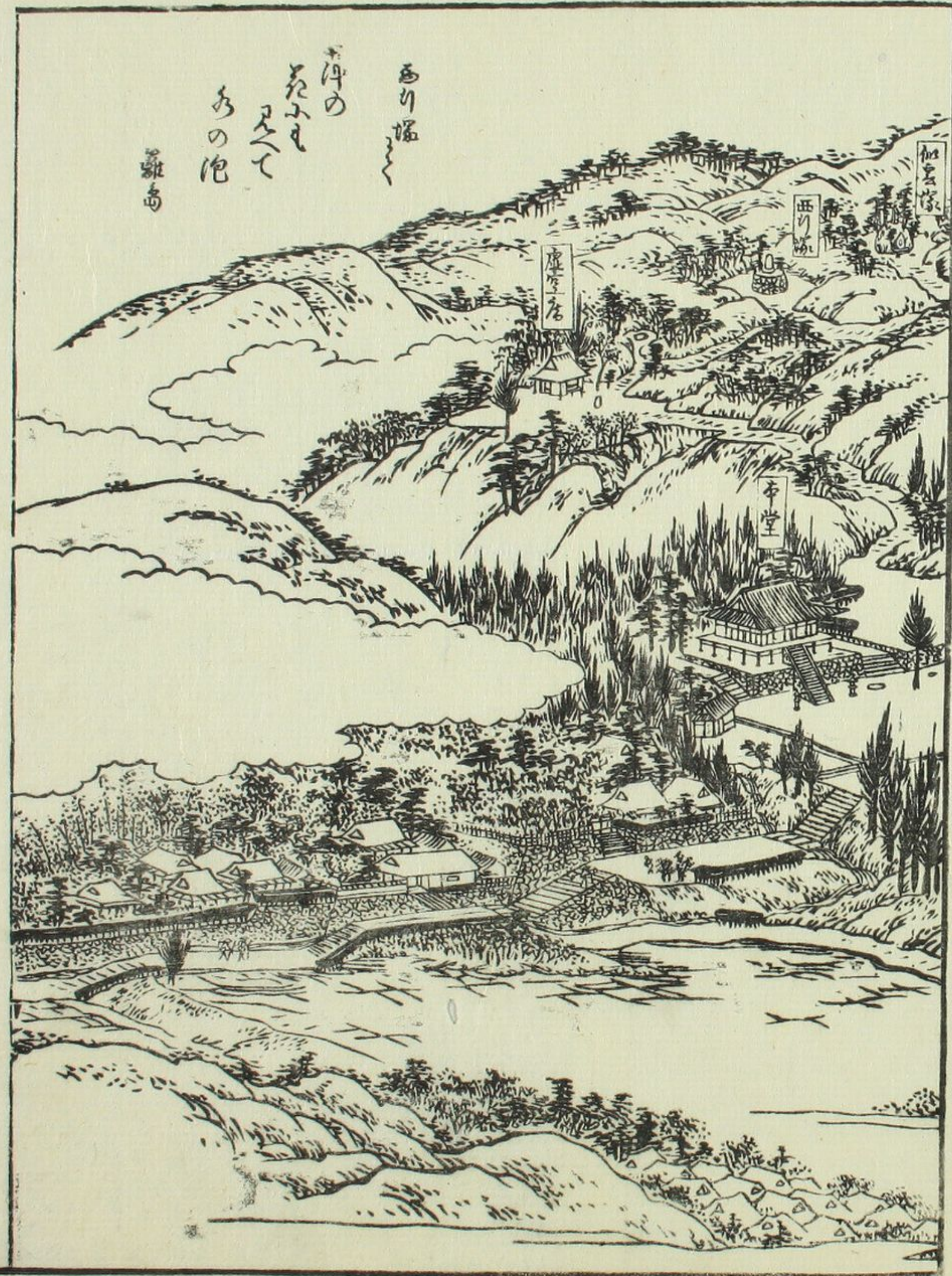


白麴
味の
月
葡萄
名



富田
興正寺
此地葡萄の
名産

河
二
五



龍池山弘川寺

弘川村あり

本尊薬師佛

弘法大師自他の像あり

地蔵堂

本堂の傍あり

大師堂

長八尺六寸許

鎮守

本堂の方あり

西行堂

西行上人の像あり

西行上人墳

本堂より西行上人の墳あり

規櫻

堂あり

河内弘川寺

有白櫻大一圍許花彩可愛寺僧云是楠氏家臣隅屋與市高壘之地也嘗以此樹爲楯自

畫其地而誓曰

規櫻曰賦一中

樹下後人稱曰

規櫻曰賦一中

聞說南朝多義

臣就中隅子最超倫

只今祇有櫻樹

在長使行人淚沾巾

五葉松

堂あり

龍池

池あり

奥院

荒廢あり

花之庭 加吉法師の位札新之一名甚る亭あり

似雲墓 谷の庭山下 久黒石 山上六町

又當山に寂奠する山寺あり

度日清津人世あり

任中より風あり

天智帝四年役小角

業師の畫像と本尊あり

久れに必驗あり

二ハ隠水ニハ之ニ又ハ四ハ赤龍水五ハ白龍水ト辨

の天平九年行基之士本尊の靈應と感しひかふ安居する半一爰之
光仁帝の寶龜中其沙門光惠は位一と修學一履歷の事元亨釋書
かふらう興院の旧蹟は本堂より押の方五輪石塔婆あり弘仁三年も
弘法大師登陸し伽藍と一新し之密の教法を修練し終る
後有羽院上皇所不祿の時嵩山室寂上人其初を修習する師平入念の
は車駕成らざらぬ山より終る其折の所製也

山深き其の下の深し水かろぬ末に傲厚水の名

後有羽院

其より武百餘家公屬く寛正癸未の年小室の國中大亂とて
戒馬終結する時山嶽山麓城小火ありて修禪寺も懼て率小焦土
とありあれより先あり法師斗檄の時登山際水一に出境を視て
あふ本年訪と居り建久九年二月を幡然とて西子降る語
末期と知く和ふと詠しと遊に蕭洒風標さみ五百餘家騷人
墨客顔艶せんとし半か一辺頰伽法法師ありて菴成

河二二六

むき姓は松井藝別度時の人と和ふと嗜く世に唱る曾て藤亞相
實薩卿の門子とあり煙庵と友と一脱白己未二十年裏裡の詠藻
貴子多首あり半公志は寛延の初泉別路尾常樂菴に寓
しと子削しと北卷より題しと年並料とつけしに蔵む
依韻刺芳萬世亦郁々として多く石山寺著門大士を禱く
靈感を得く西りの古墳と占得たり碑と立記と作しと后生に
示次又文覺上人の彫りのあり肖像と獲く一堂以結縁しと
礼供する幸久一寶曆三年初夏病み罹り七月八日溘然と
しと菴裡に逝は遺骸とあり上人の古墳の側に瘞石公彫く
奉目と識と 以上寺説
大意

西り上人の古墳とあり
ありと神不邪とのかゝる外はハレとまはる古はの
世くと廻り若むむと人の之れくちぬるや石ふのこゝん
中石公志一人の種はふ
樋口何某あり

長秋和奇集

圓位聖歌と判きひたり一其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
類ノ事アリと云々多ク其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
カノ上人先キのヤリ小橋の奇多ク漢ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
おましくハ花のりやうく其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
運ふ其の日後うそけ々々其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ

里族云

長秋の海原小庭弘川寺と云ハ其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
弘川ノ内ノ山ノ傍ヨリ其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
室ノ内ノ山ノ傍ヨリ其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
一唯の中ノ山ノ傍ヨリ其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
めれとも其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ

望龍

弘川ノ山ノ傍ヨリ其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
弘川ノ山ノ傍ヨリ其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
弘川ノ山ノ傍ヨリ其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ

淨蓮寺

持尾村小あり見初ハ其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
持尾村小あり見初ハ其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ
持尾村小あり見初ハ其年ハ文治ノ内ノ弘川と云ハ山寺ヨリ

福林院

日村小あり真言宗本寺毘沙門天ハ長六尺竹云々
日村小あり真言宗本寺毘沙門天ハ長六尺竹云々
日村小あり真言宗本寺毘沙門天ハ長六尺竹云々

御堂石

持尾の山平石村の南小あり相傳フむう一後多羽院弘川ノ奇
持尾の山平石村の南小あり相傳フむう一後多羽院弘川ノ奇
持尾の山平石村の南小あり相傳フむう一後多羽院弘川ノ奇

和爾池

喜志村小あり長六尺竹云々
喜志村小あり長六尺竹云々
喜志村小あり長六尺竹云々

美之具留御正神社

六箇村の生土林ノ嘉祥
六箇村の生土林ノ嘉祥
六箇村の生土林ノ嘉祥

白本觀者

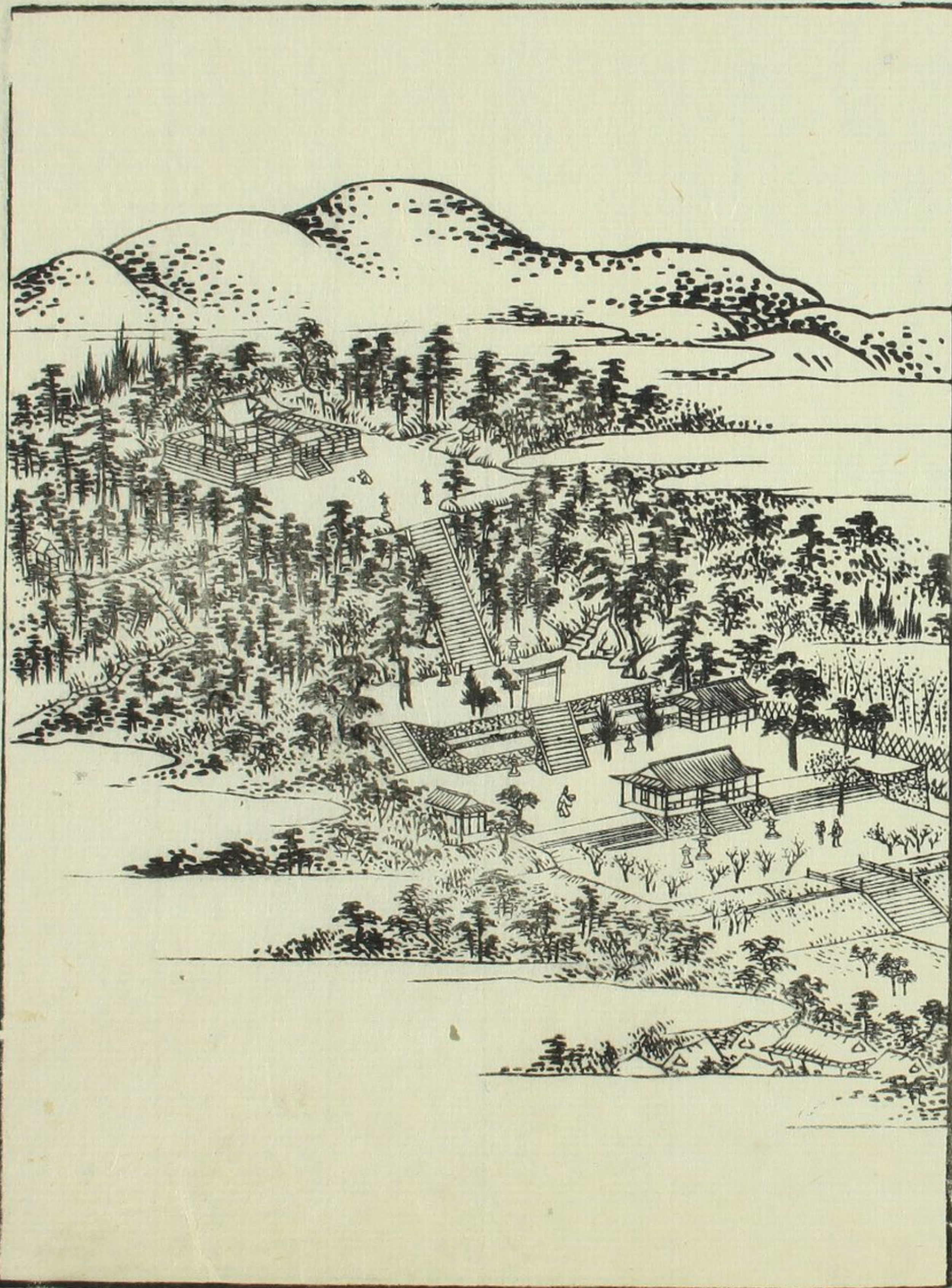
白本村小あり十一面大慈菩薩ノ
白本村小あり十一面大慈菩薩ノ
白本村小あり十一面大慈菩薩ノ

加納地蔵堂

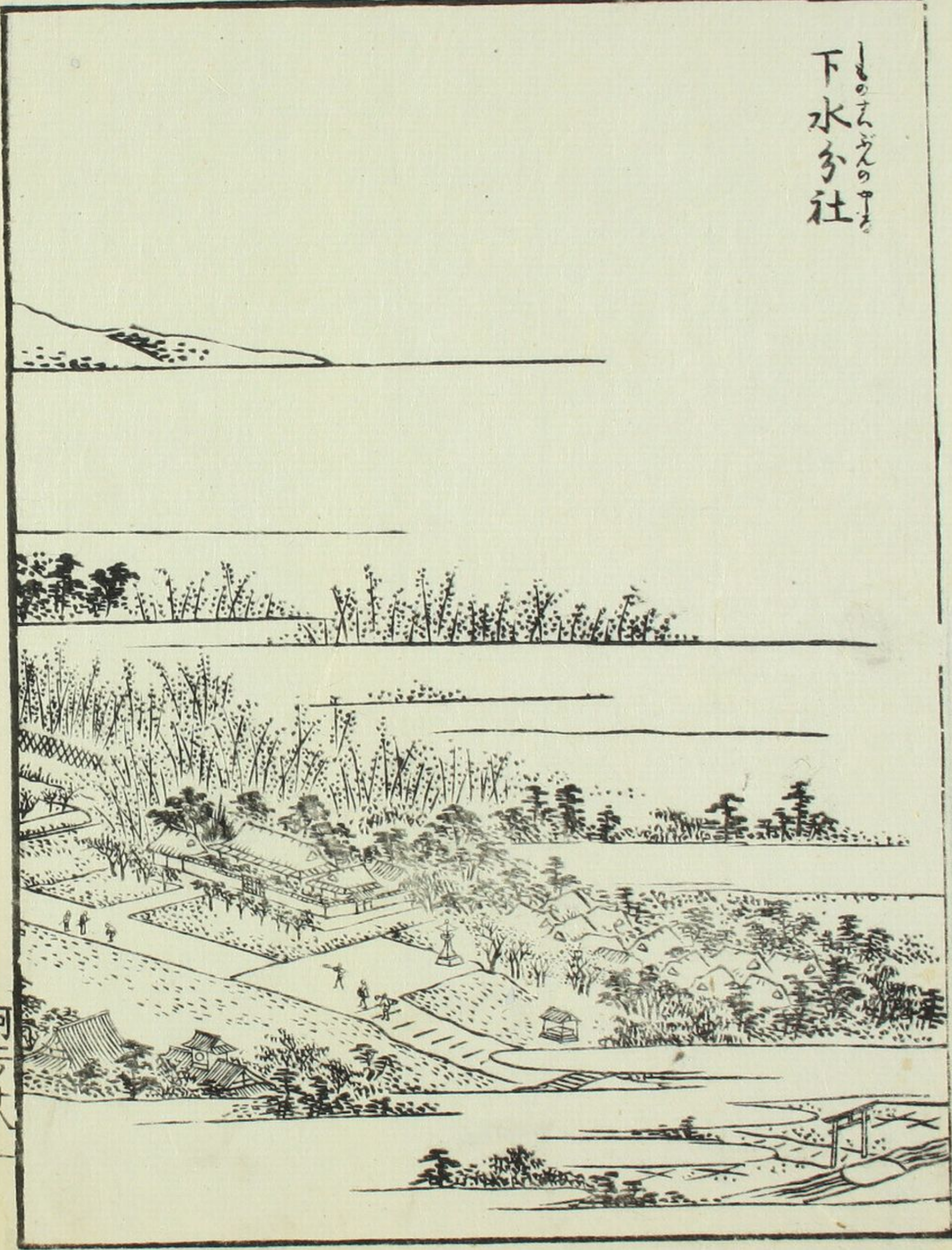
南加納村小あり東福寺と云ハ
南加納村小あり東福寺と云ハ
南加納村小あり東福寺と云ハ

梅川

水原竹谷ノ出ク河内上下ノ村ノ奇
水原竹谷ノ出ク河内上下ノ村ノ奇
水原竹谷ノ出ク河内上下ノ村ノ奇



しんじゆの
下水分社



河
八
八

かゝりく其外赤岩多し地勢揚きく南小金剛山の巔迫く
又之東大和の臥火山之脇杜纏向の檜原之香久山ふと遠き見え
つら西の方より内河内の中村松陽の村邑難波江珍努海もみち
浦の初岩芦屋里鳴尾寄洲の浦まきく鮮よしく風色いち
あらく一國の揚系さるる

古今 春宮御入左近
いと橋のよるれ契りも級ぬくしゆる佳しきつらしたの神

日 後人志
加のたやぐちふはと岩橋の中くしとも帰るぬり

日 日
葛株や赤やぐちの橋つらりぬり後いぢかすそかり

日 日
いそりう若しれたおそ葛株のくちれ橋の中れ多ま

日 日
加のたやぐちふはと岩橋も契の契いむとそそけ

日 日
つらたやぐちふはと岩橋も契の契いむとそそけ

日 日
葛株の神そかりしゆらとそそけ

磐船神祠 葛城山の山中あり平石持尾の生土神と例案六月廿三日九月七日

稟 十種の神寶と授け

山 龍宮と神籬と櫻祠と

磐船 社頭の前く小舟なり船の形小舟と艦艦ありと凹あり

浪石 社頭の西を町計小舟あり石頂小浪の吹よせり

河上峯 磐船山の南にあり一名諸神嶽河内志と

至 河内西草香絶

國 の南より

郡 河内志の岩船石のひり

岩橋井 平石村小あり傳云むり

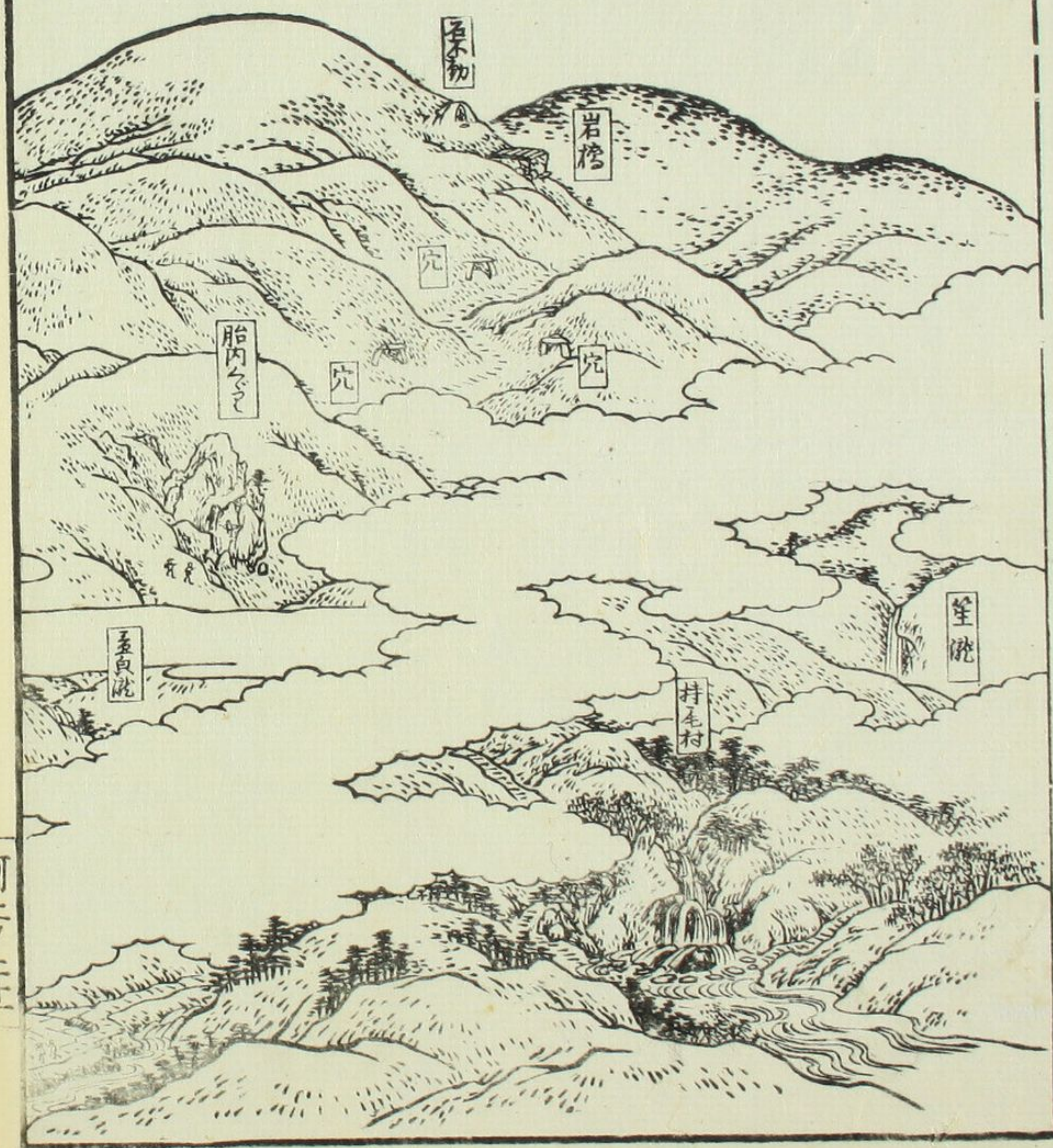
書 近平高貴寺の意を比丘

大師總石 日村の入口あり

弘法大師所築山

葛城山

細圖



河二ノ二十

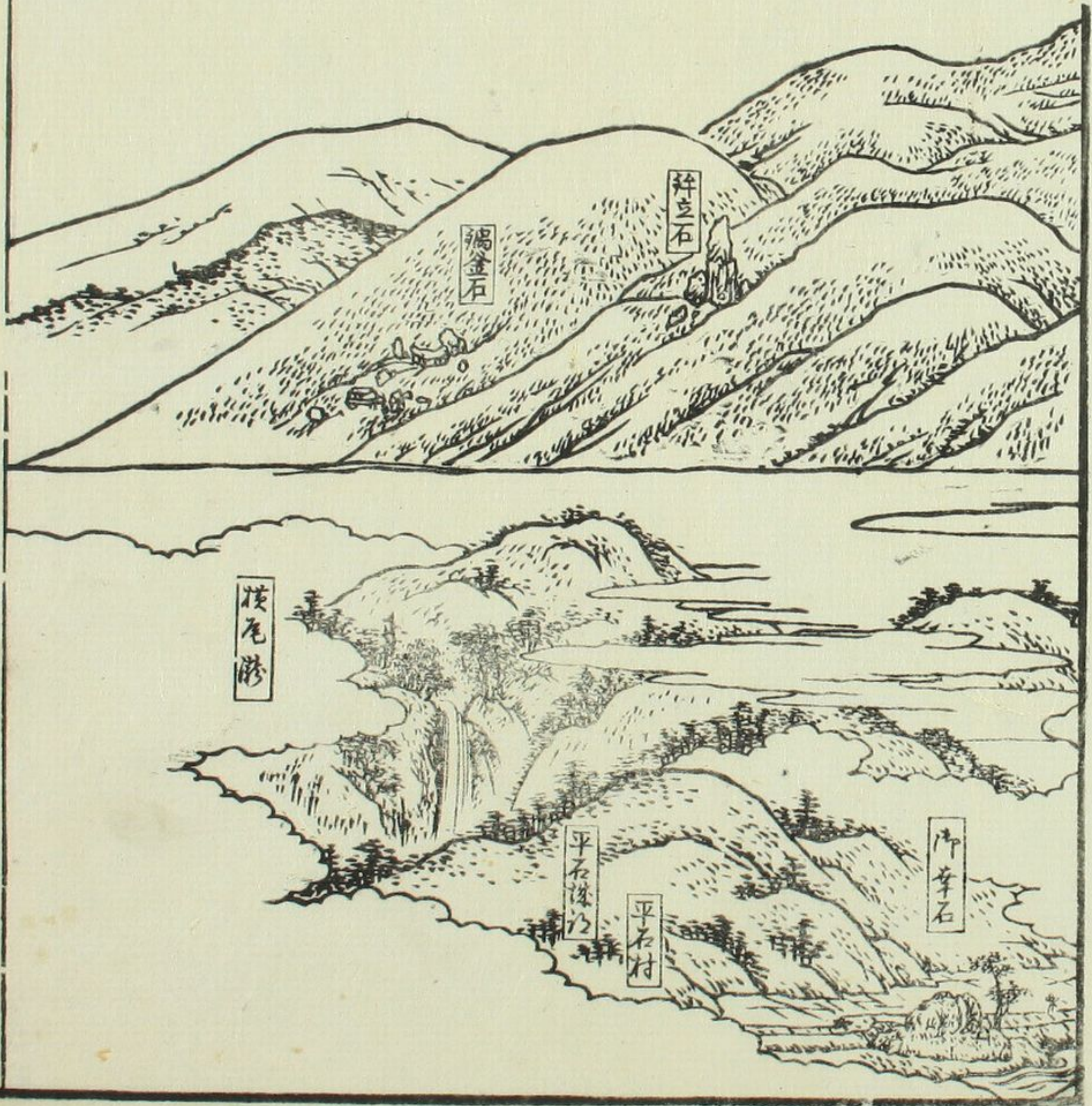
子灰
又々々
花み
徒々々
作の顔

ととと

葛城雪擁

寒日微々行雁
間千尋雪擁
葛城山朝来偏
遇孤溪上有客
扁舟訪友還

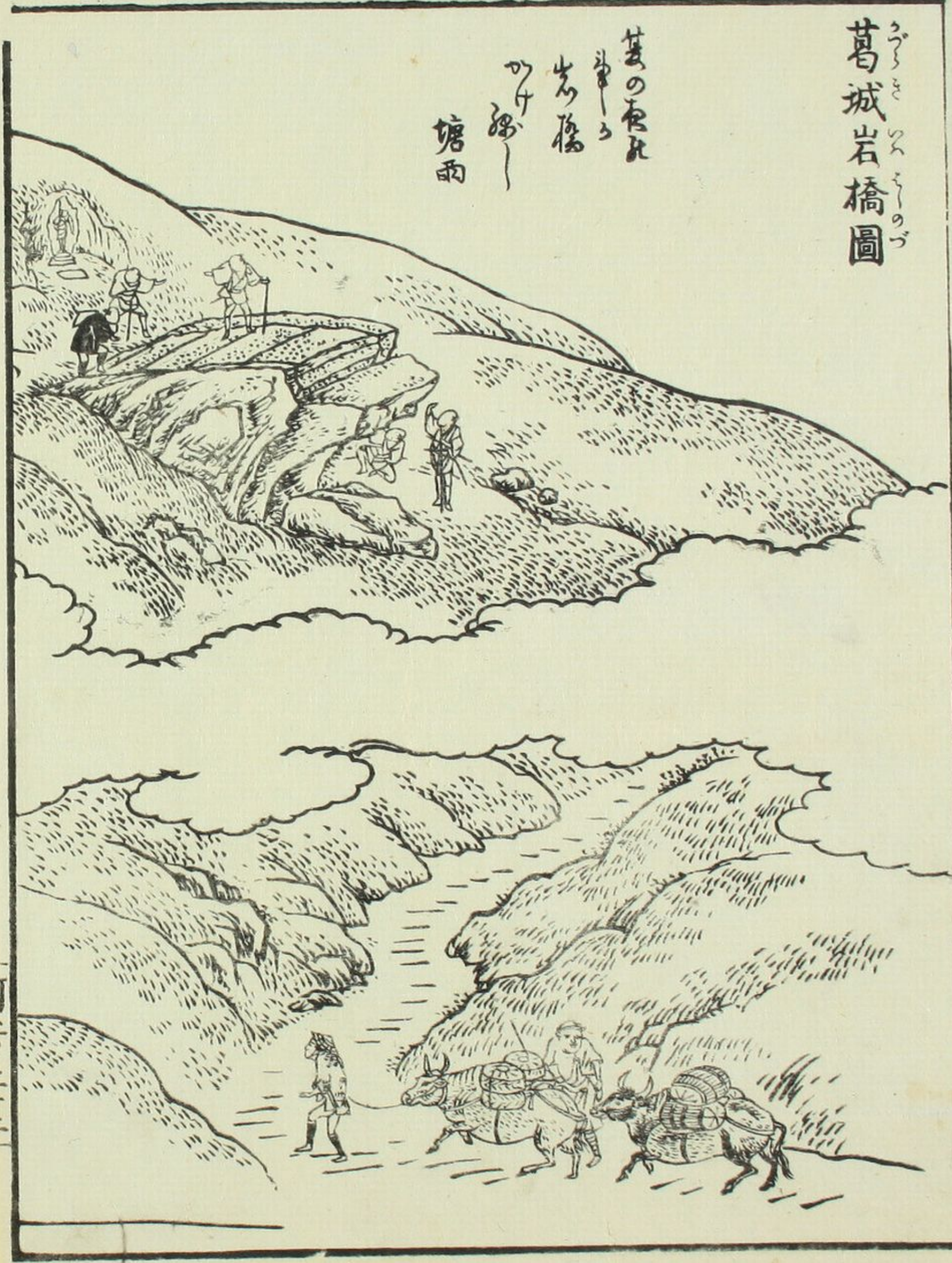
生駒山人





葛城岩橋圖

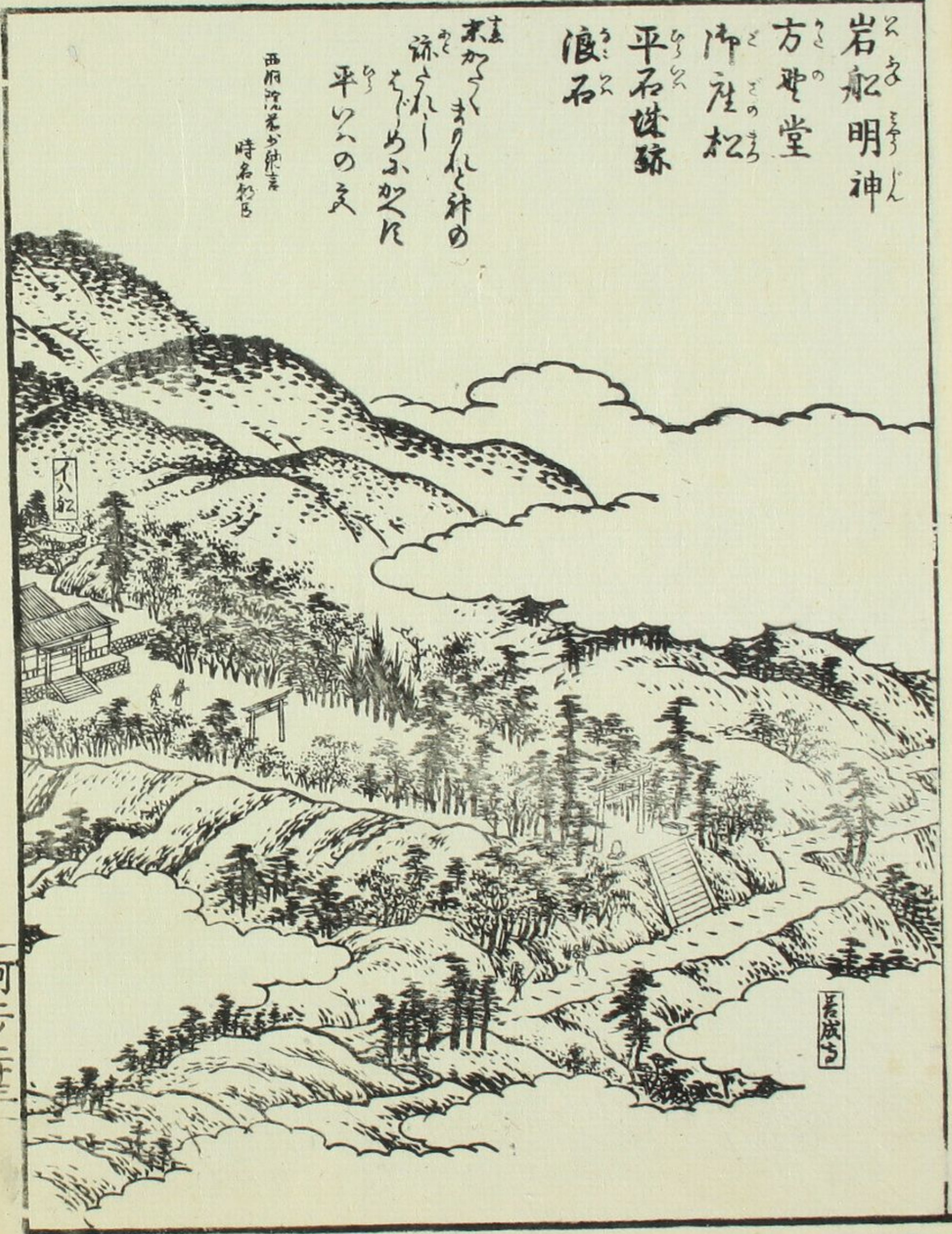
其の石
 其の橋
 のけ
 塘雨



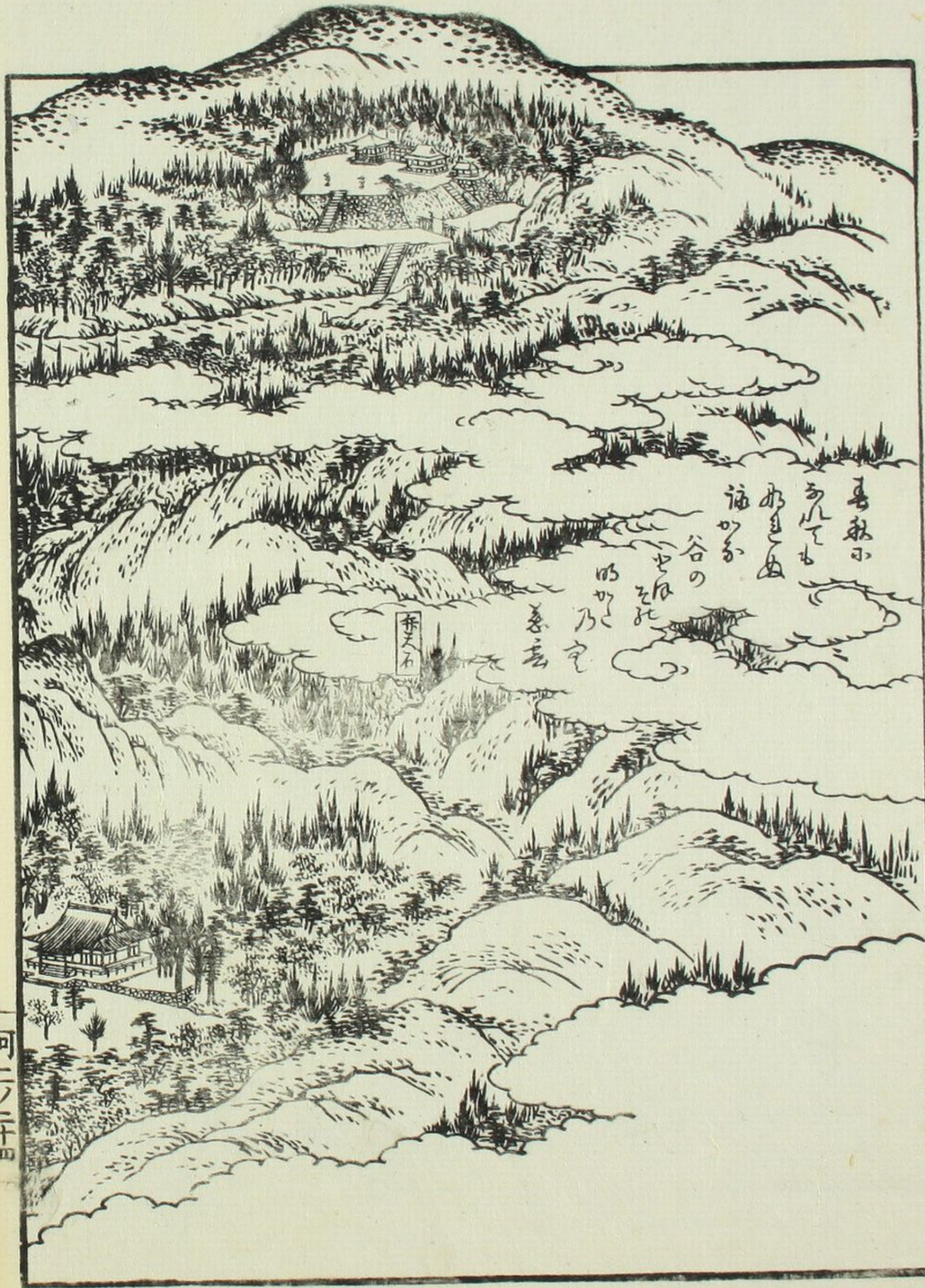
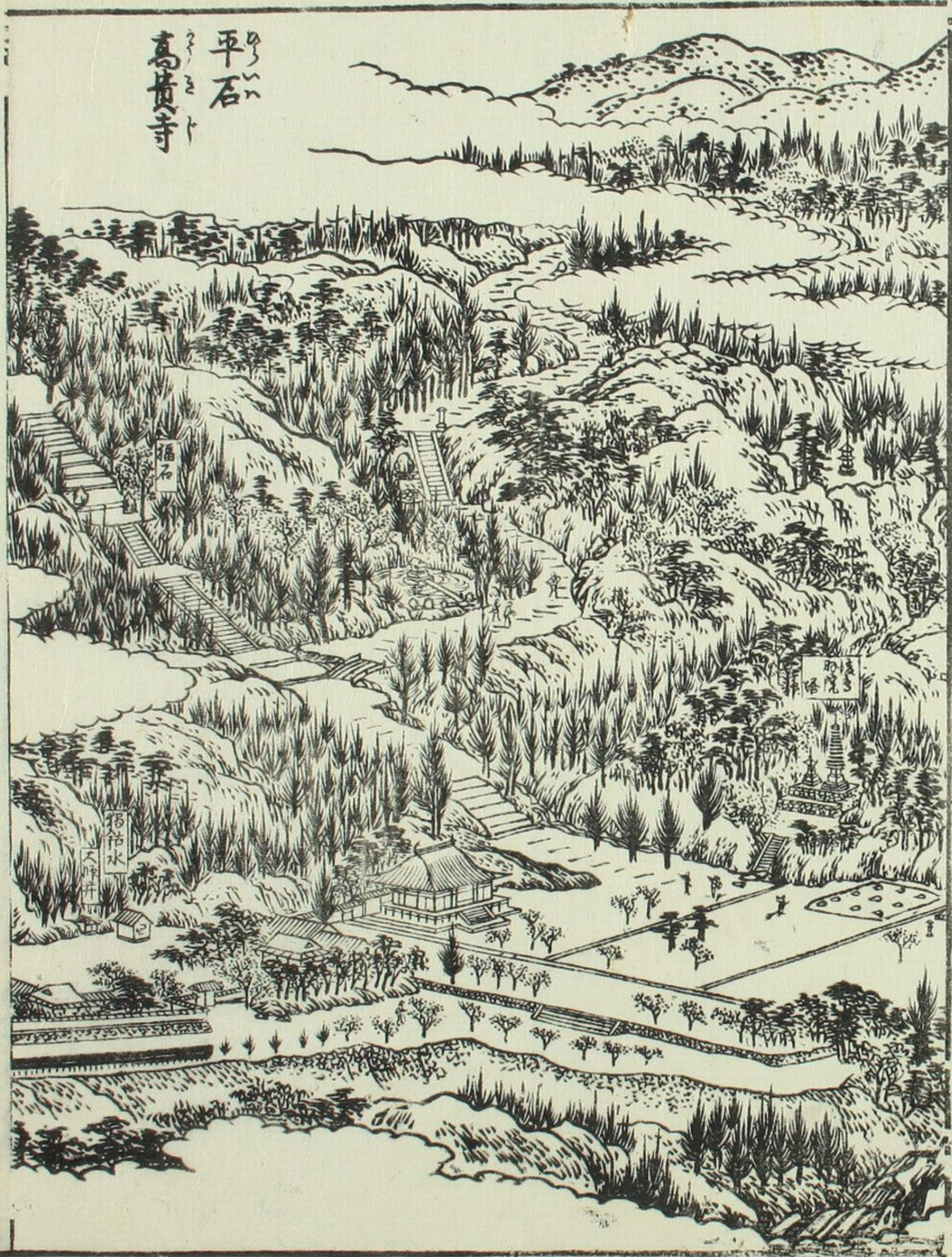
河二ノ二十二

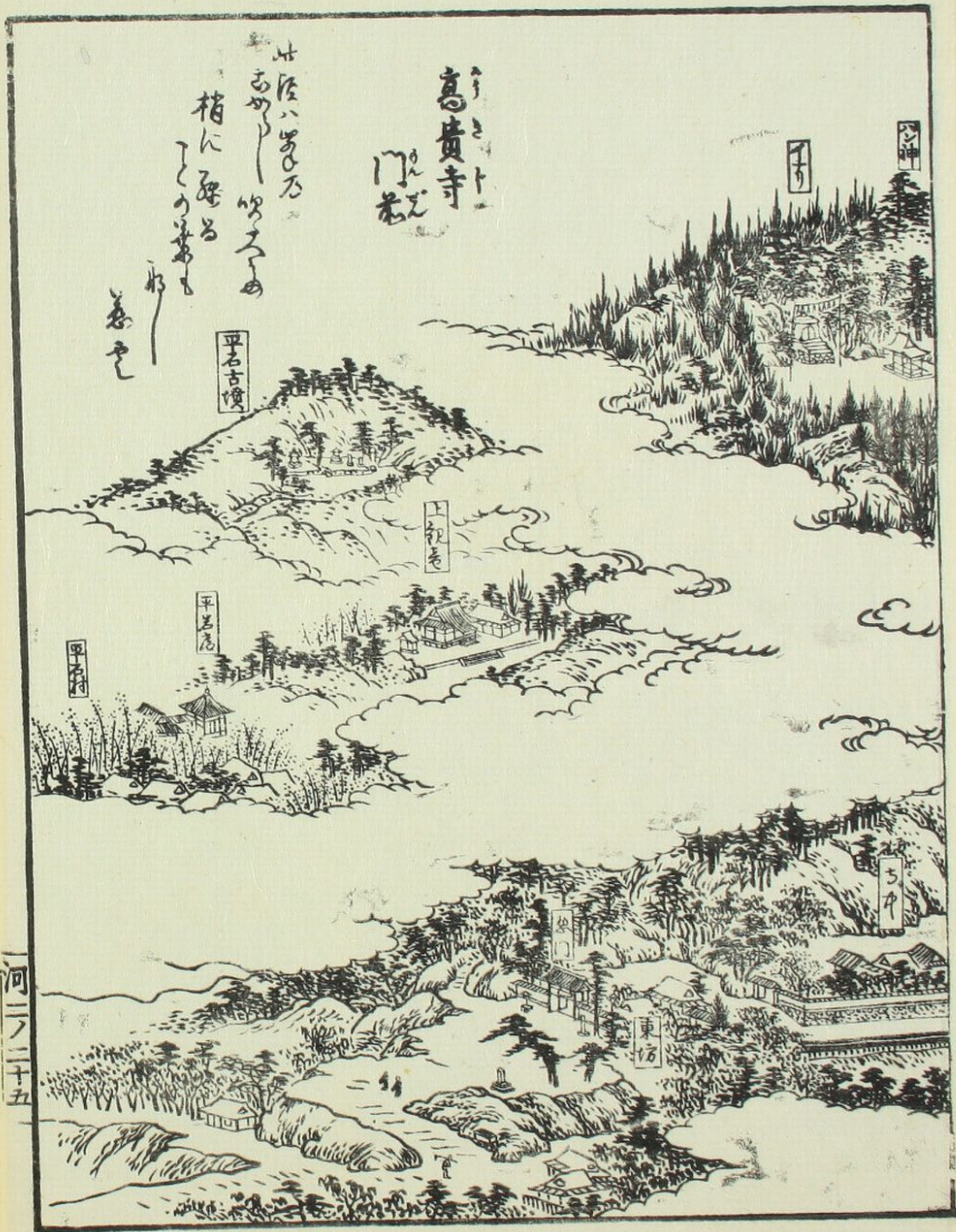


平石の
 遺跡
 浪石
 山田井
 本社



岩船明神
 方野堂
 平石遺跡
 浪石
 平石の文
 西州流茶少納言
 時名抄





神下山高貴寺

平石村あり、紫有真言律門若小之界外相う標石伝建る
是より女人結界あり坊舎四字

金堂

奉尊五之尊各長四尺 弘法之作、鎮座の塔婆と安ん
座傍弘法之作也 講堂 又曰此の妙善菩薩と安ん世も

弁財堂

後桃園院 洞明門院等の 神牌と安ん
後桃園院 洞明門院等の 神牌と安ん

獨鈷水

滴々と漏出、又厨伽井とも称す
滴々と漏出、又厨伽井とも称す

埋まぐ木葉の下に流し水あられの末らえん物語

弘法之作

後香羽院塔

金堂の右あり十三重の
石浮圖あり 多羽院後僧正塔 日新小

大師堂

奥院と称し弘法之作三十二丈自他の
新條と安ん 脇土四天王 寶藏院 大師堂の
右あり

多門院

大師堂の左あり 戒壇塔 奥院の下
中供所あり 龍池 金堂より奥院の向ふ
あり 早天小祈雨あられ

忽應驗

鎮守 巖船明神之神躰

五彩丹楓

山の名木、秋に紅くあり、杖の末、葉の時に
五彩の姿を現し、蜀錦に似たり、遠近の騷人を驚かし

賞

賞 其れ神下山の役優婆塞を創し、ゆい香茅寺といふ、殿后弘法

大師三十二丈の付け山中へ入る安居し、終る其旧跡、山をく、七町斗

大師三十二丈の付け山中へ入る安居し、終る其旧跡、山をく、七町斗

東北小あり地名今小安居といふ其時大師高貴徳王菩薩の尊
 像弘別くあり小安堂一弊と高貴寺と改むけ精舎小於く大師
 密法修練の時法衣の以ひ併法僧といふ多の聲弘聞ひひく
 詩と賦しひ

閑林獨坐草堂曉三寶之聲聞一鳥

一鳥有聲人有心聲、雲水俱了

又大師極盡の入宋も水といふ名樹あり其外龍池隈一水福石かとの
 名蹟多し雲龍丈室玲瓏りく後香羽上皇ハ慈母山ハ其の如く小
 車駕とめづり大師の詩賦と戯聞ありく御製と賜ふ

我國とみのりれ道のをろれともも唱ふる併法傍のか

併法傍といふもハ其體陽鳩小如く色碧之其啼考ハ併法傍と
 吟らぬ一山寺ハ年茶涼く樹々特小老く晚清溪向予響きこ
 直直々々山屏佛屋と遠く流るる石溜僧舎小供く足りり實予

維摩詰が弊香積といひは

當山の現位慈雲和上の密法修練戒り奉備の人ハ其祖先原持
 播州白旗城主赤松次弟入道兼心の苗裔なりく備岐高松原の家
 森川氏ハ海速高松第一なりて其幼年より併門子澤入り
 持州田舎法樂寺忍網和尚より密教を學び同國高井田
 野中寺小能く戒律を唯ひ専密教を學び同國高井田
 長樂寺ハ再營し又同く河内郡額田村の山奥長尾
 律坐し高貴寺ハ止鑿りて其堂成修補し律宗傍舎
 建法道年案官の令成業より戒師小立れ洛西
 阿彌陀寺ハ止樓ハ伏見觀音寺ハ密寮ハ持州有馬
 桂林寺ハ建く時々あり止做ハ地毎年年嵩山
 於く一安籠りて安居ハ神書爲人通及ハ記
 加く其外かそ一の著述あり其山々祭ひ

平石古城

城跡平石村小あり古城傳云方六町の城なり勝正
 四位平石左衛門尉直直南朝ハ屬し楠氏の軍
 配と澤くあり兼城より年あり元弘の兵鎌倉乃
 大軍攻勢より時々あり勇と據り南方一城の之將也
 忠と澤くあり兼城より年あり元弘の兵鎌倉乃
 四年足利勢今川上惣守佐々木六角判官入道崇永
 同舎山ノ内判官五百騎あり其城門逆崇永
 と切破り其をも絶ど攻られを遂ハ藩城し其日の表

計五金剛山とて... 左邊門尉茂直の遠孫今尚村におぼれ... 平石の墓... 楊貴妃の賜... 是平朝ふ... 平石の家小傳り... 乃

平石城碑

河内州石川郡平石有廢城在昔橘茂吉
 所據茂吉嘗有功為河内守卒贈正四位
 上數世至茂直任充衛門尉元弘之役
 南帝戰不利及笠置城陷楠正成與親王
 護良俱奉帝曰據此城平高時乃移兵
 來攻茂直師其族禦之殊歿戰者七日
 夜高時知其不可克於是夜放火烧外城
 鼓噪乘之城中擾亂士卒相壓茂直猶勵
 餘卒自若不動使正成護帝避焉翌日
 城終陷茂直自殺帝聞之嘆惜追贈以
 正四位上男茂直尚幼其妻抱日遁今
 所傳光明后橋佛古鏡及劍皆其遺物

也茂幸既長來見其荒廢不堪悲惋認
 帝座之跡植之曰松存舊也茂幸官為左
 馬丞其後雖微瓜瓞綿綿至今不斷裔
 二人曰吉房曰正大六善士也往歲聞故
 少納言平時名善國風來而學焉時名
 一曰從容語之曰顯揚祖德孝孫之職也
 我聞乃祖誠忠死節益勤諸貞石乎二人
 感感焉即請作銘未成而吹名卒矣今茲
 季春因知友請予代之予雖不肖辱銓衡
 之職豈可不成其美乎日記其概係之曰
 銘銘曰
 平石之隍 淵淵其淵 勤王之役 角弓其翩
 南風不競 崇墉斯顛 命為國徇 身為君捐
 宥哉國步 雄志不宣 偉矣天定 令名永傳
 從四位上行式部權大輔菅原朝臣長親撰并書

我死塚

出又上之菴... 平石累代墓あり... 法善經教書... 向者多く

。碑碣雖未成風因聽銘書云

蔵ひ上小五福石塔あり又家屋の乳母谷小あり平石祖
廟の城跡あり子傳真興誕生の碑あり又南照殿と
古縁あり南朝後村上院の御宮とあり又平石の家祿
の御殿あり今之御殿あり

善成寺古蹟

平石村北蔵院觀音堂等坊舎あり今現存
安成弘法大師の御長三尺下之堂の本尊ハ十一面觀音
長三尺許の像とありこれみか善成寺の古件なり
善成寺ハ後醍醐天皇御宇弘仁年中弘法大師の御
御心山頂より光明結ぶる靈地と云ふ事ハ
善成寺二年丙午の春二月伽藍造建の功終りて
善成寺と号せ其寶珠ハ上之堂箱の御心藏む
初亂の時後醍醐天皇護良親王直記云ふ御心
佛の足利寺ありと云ふ事善成寺の御心藏む
佛の法衣御心藏む事善成寺の御心藏む
四方より火風かけし事善成寺の御心藏む
諸堂の御跡あり善成寺の御心藏む
後醍醐帝御念持佛の觀世音ありこれハ光明皇后
の御心藏む其外蓋室多し

の理趣經あり之因傳來金洞の觀音又昔の塔中の本尊阿彌
陀佛 後醍醐帝御念持佛の觀世音ありこれハ光明皇后
の御心藏む其外蓋室多し

善成寺ハ榮之く類廢しく佛堂の址田舎の字とあり古碑ハ剝落して全かた
礎石所くあり之善成寺ハ満地ハ善成寺とあり之御心藏む
の心あり之御心藏む之御心藏む之御心藏む

善成寺ハ榮之く類廢しく佛堂の址田舎の字とあり古碑ハ剝落して全かた
礎石所くあり之善成寺ハ満地ハ善成寺とあり之御心藏む
の心あり之御心藏む之御心藏む之御心藏む

善成寺ハ榮之く類廢しく佛堂の址田舎の字とあり古碑ハ剝落して全かた
礎石所くあり之善成寺ハ満地ハ善成寺とあり之御心藏む
の心あり之御心藏む之御心藏む之御心藏む

善成寺ハ榮之く類廢しく佛堂の址田舎の字とあり古碑ハ剝落して全かた
礎石所くあり之善成寺ハ満地ハ善成寺とあり之御心藏む
の心あり之御心藏む之御心藏む之御心藏む

安川井

平石村小あり原安川院の御跡あり弘法大師の御心藏む
威得の井あり今之御心藏む之御心藏む

大清水

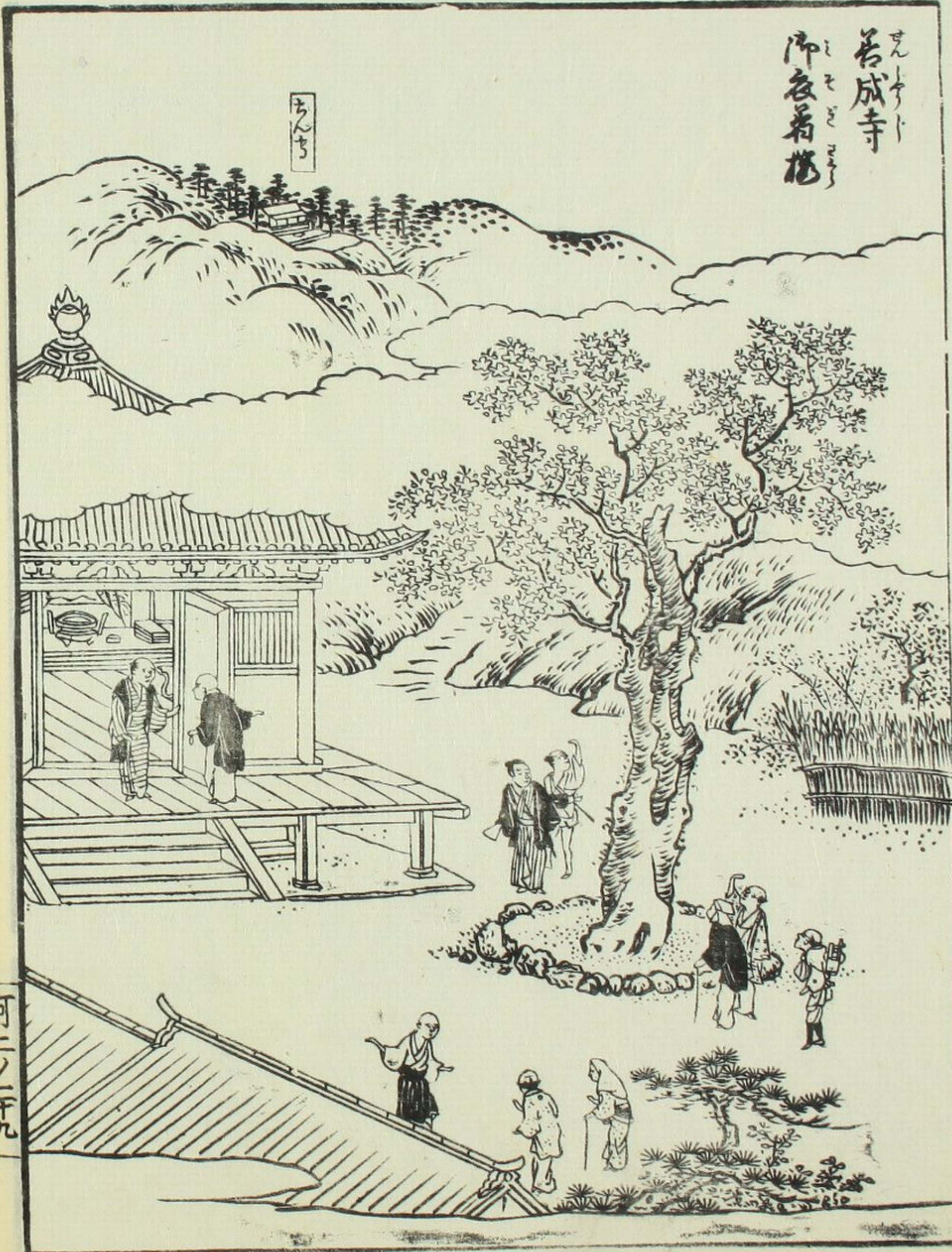
善成寺ハ榮之く類廢しく佛堂の址田舎の字とあり古碑ハ剝落して全かた
礎石所くあり之善成寺ハ満地ハ善成寺とあり之御心藏む
の心あり之御心藏む之御心藏む之御心藏む

燈明橋

善成寺ハ榮之く類廢しく佛堂の址田舎の字とあり古碑ハ剝落して全かた
礎石所くあり之善成寺ハ満地ハ善成寺とあり之御心藏む
の心あり之御心藏む之御心藏む之御心藏む

阿闍梨真興碑
 凡人之所以競功利張聲譽烜赫於一世斯須
 變遷終皈窳落之徒泥洹也何平岩氏之昔盛而
 察乎缺減而其盛位祿並進割據因緣又為善成
 今衰也越我弘法大師所開覺鑊上人厚固非
 寺大檀越寺弘法大師所開覺鑊上人厚固非
 泛常善成寺弘法大師所開覺鑊上人厚固非
 山名寶珠巖為一方靈場而與平岩城相隣乃營
 有若上綱法師自其家出焉師名真興字洞輝
 贈三位橘朝臣其子稱侍從以兼平四
 年甲午正月朔誕于平岩之城十有二在善成
 六受戒初從興福仲算究法遂吉野仁賀傳真言
 寺蒙荒神靈示受密法翹楚永觀元闍梨位
 之秘訣顯密兼綜為一代灌頂弘法大師將
 一條天皇不豫勅善成寺入壇賜弘法大師卷長
 來兩部大臣曼陀羅師修並大般若經六百卷
 保五年任維摩羅二幅寬弘元甲辰正月任
 權小僧都奉勅修會講已歸于島至十
 月十四日示寂年七十有一師嘗有誓詞曰不
 內院今子島有上天者師嘗有誓詞曰不
 生不滅不離此土未來劫海利益眾生子島在

善成寺
 佛衣着地



河二ノ千九

大和之高市寺，號觀覺寺，有自作像于今存焉。興福寺勸善院亦存師祀，而密法兼焉。又高野南院有師画像，而南院洎壺坂山安部山皆傳師之密法，謂之子島一流。元弘辛未，平岩敗于鎌倉之兵，族類離散，終不復振。子孫旋飯，茲土綿延至今。當時事實遺趾猶歷々，可數有其所紀載，亦歷々可見。平岩氏世為邑宰，頗豪富，不失故業，是其雖衰未，豈積善之所感，非所謂吾道之所陰翊者乎。今吉房欲於寺中築上綱大德之塔，請銘于余，其不忘本，是可銘也。如師之傳著于元亨，釋晝此不復贅，而及其遺佚已銘曰。

猗歟大德 窮相明理 續緒先宗 親觀慈氏
啓迪後進 面現都史 唯識觀成 降伏魔魅
吉野高野 深探秘符 有顯有密 如戴角虎
子島一流 輝騰今古 善成遺蹤 利益是怙
天倫所系 建斯率堵 眞俗兩融 永受皇祐

寬政十二年庚申五月穀旦

前南禪見相國顯常謹識

平石吉房建之

河二ノ三十一

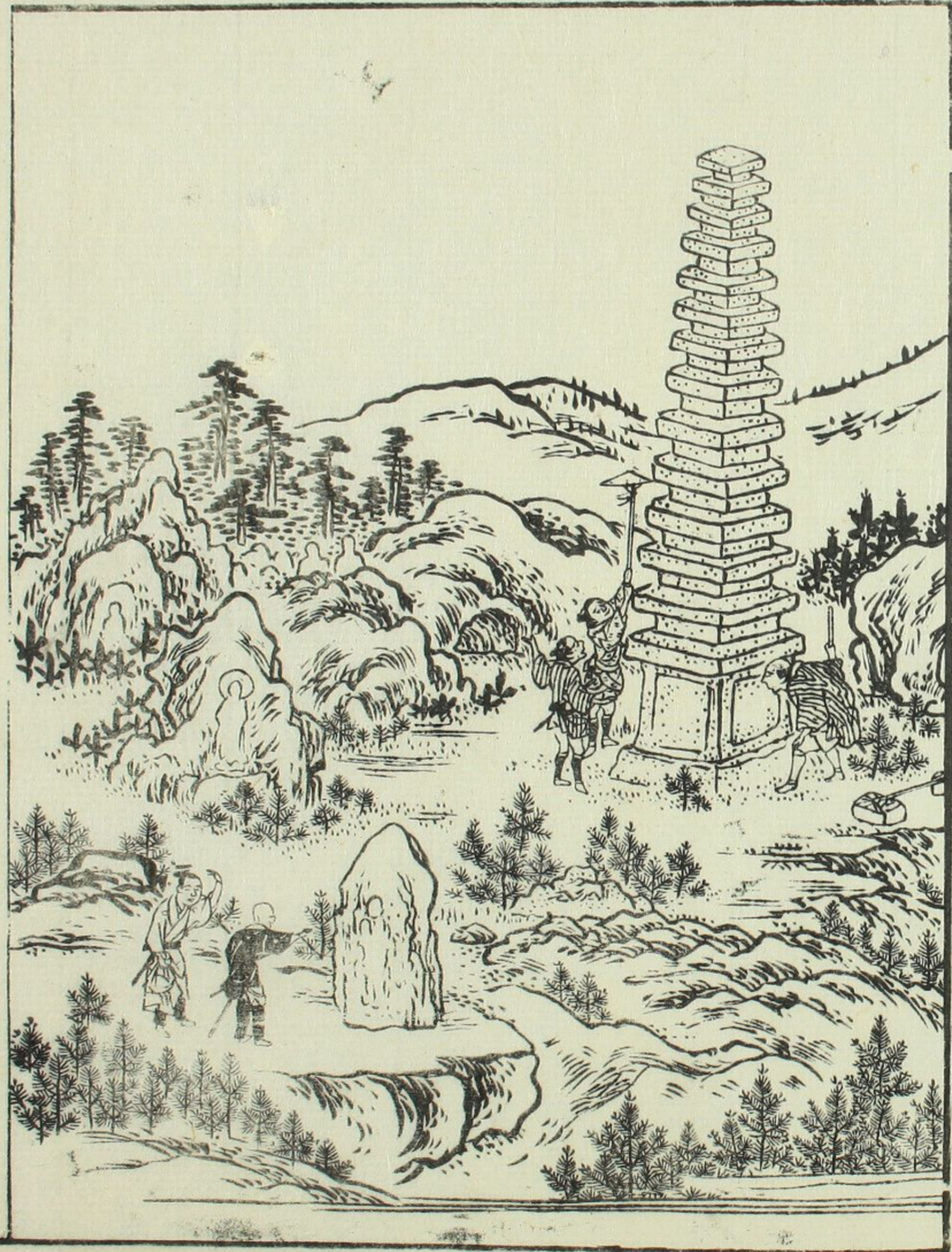
竹内嶺

山田村東十五町計あり大和國葛下郡の界なり。嶺之北和嶺通くあり。嶺之南多岐の界なり。嶺之西和嶺通くあり。嶺之東多岐の界なり。嶺之北和嶺通くあり。嶺之南多岐の界なり。嶺之西和嶺通くあり。嶺之東多岐の界なり。

鶯

我々心もほろりまよとあてもよきや。鶯の聲もよきや。鶯の聲もよきや。鶯の聲もよきや。鶯の聲もよきや。鶯の聲もよきや。鶯の聲もよきや。鶯の聲もよきや。

貴賤頻降恩轉中界白雉五年十月難波長柄豊前宮少く。貴賤頻降恩轉中界白雉五年十月難波長柄豊前宮少く。貴賤頻降恩轉中界白雉五年十月難波長柄豊前宮少く。貴賤頻降恩轉中界白雉五年十月難波長柄豊前宮少く。



六谷
十二重塔
佛像梵字
多



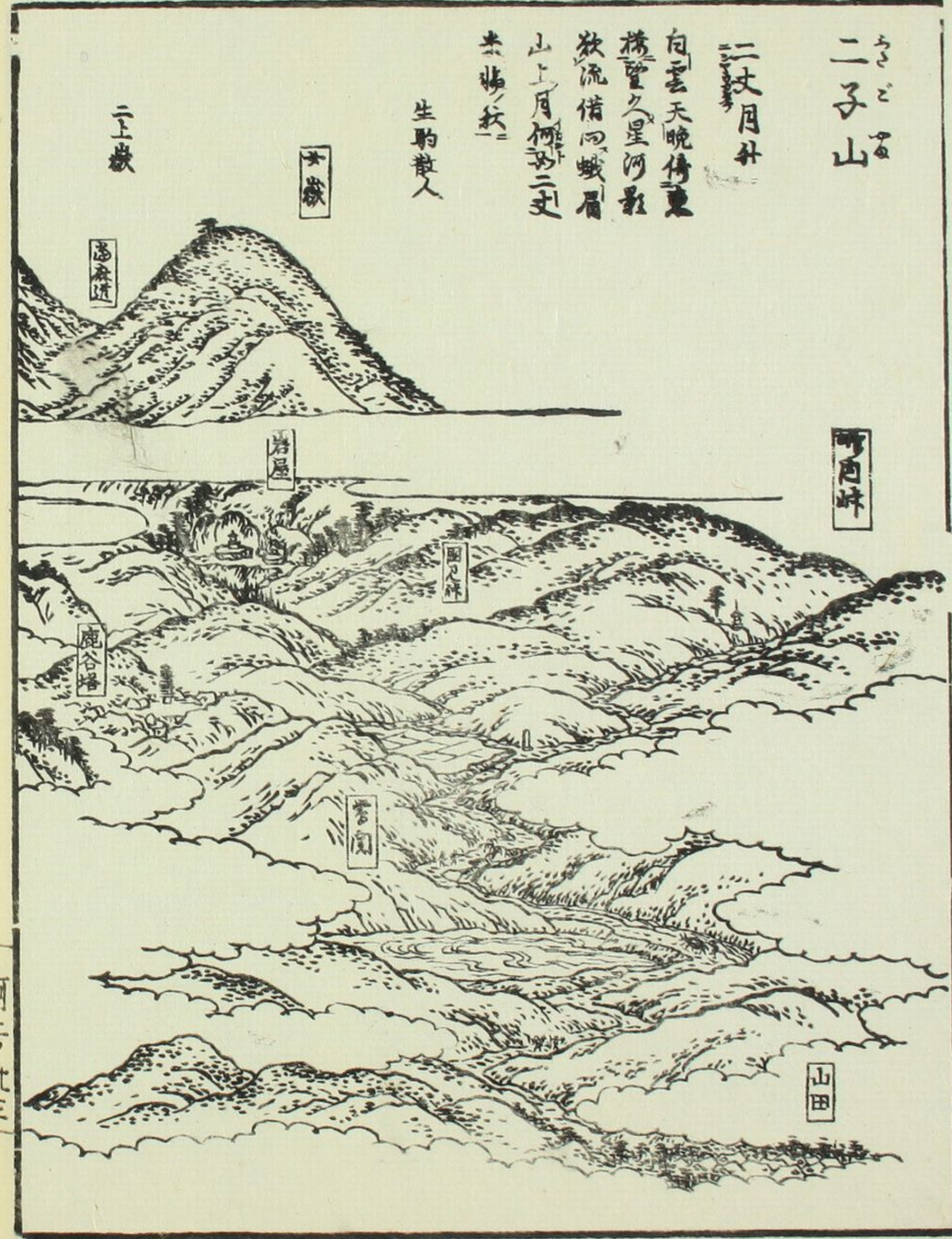
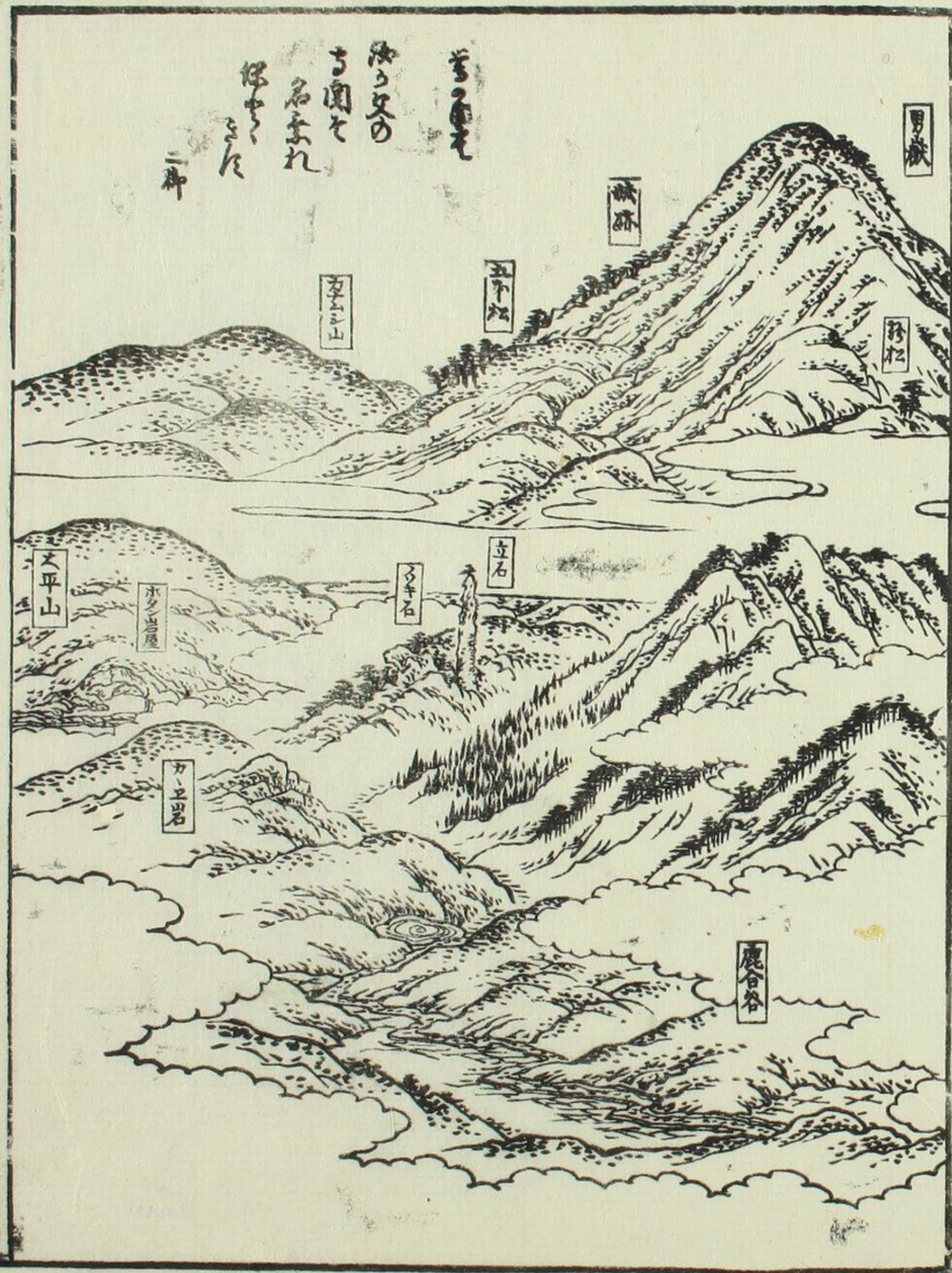


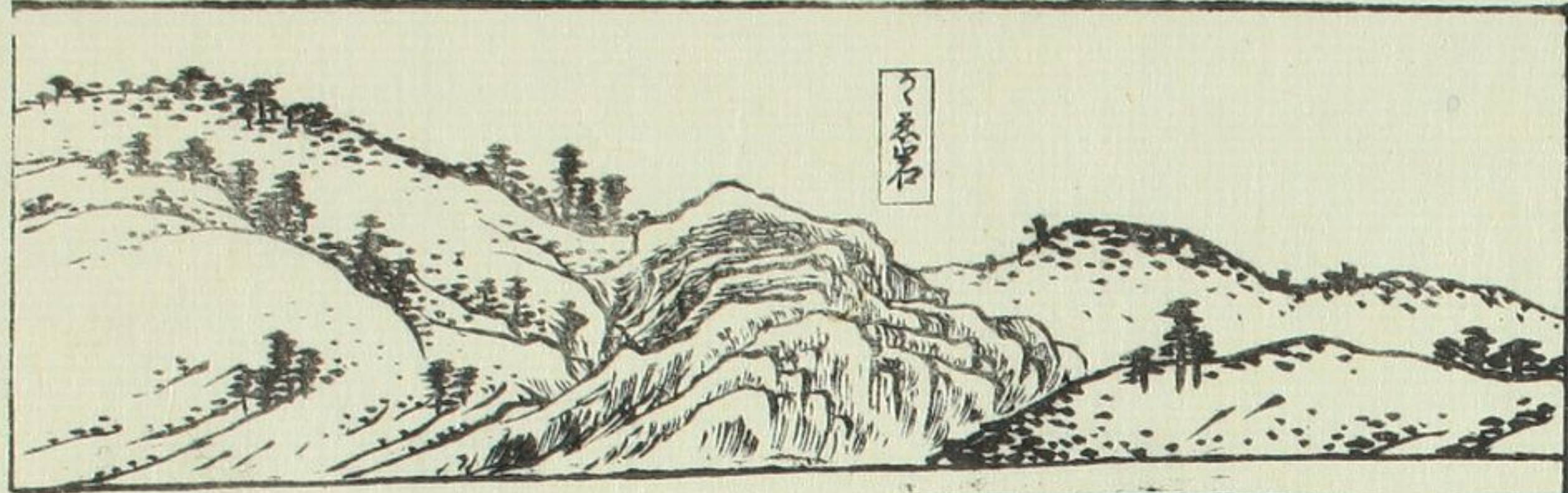
高岩乃



二上嶽
岩窟

河三九





くまの石



鹿合谷
 金剛嶺
 山漢川
 箕川
 とほ



菊水

河二爪四

三の陵北上... 鹿谷寺廢跡 竹内村の下の少入る寺なり... 鹿谷寺廢跡 石塔あり... 鹿谷寺廢跡 石塔あり... 鹿谷寺廢跡 石塔あり... 鹿谷寺廢跡 石塔あり...

巖窟 山田村東北の山中にあり... 巖窟 山田村東北の山中にあり... 巖窟 山田村東北の山中にあり... 巖窟 山田村東北の山中にあり...

抱岩 高取池乃上あり... 抱岩 高取池乃上あり... 抱岩 高取池乃上あり... 抱岩 高取池乃上あり...

古松巖 鹿向谷あり... 古松巖 鹿向谷あり... 古松巖 鹿向谷あり... 古松巖 鹿向谷あり...

二上嶽 河内大和の支國に跨る二峯あり... 二上嶽 河内大和の支國に跨る二峯あり... 二上嶽 河内大和の支國に跨る二峯あり... 二上嶽 河内大和の支國に跨る二峯あり...

名産金剛鑽 二上嶽より流るる中流にあり... 名産金剛鑽 二上嶽より流るる中流にあり... 名産金剛鑽 二上嶽より流るる中流にあり... 名産金剛鑽 二上嶽より流るる中流にあり...

不効石 山田村の南にあり... 不効石 山田村の南にあり... 不効石 山田村の南にあり... 不効石 山田村の南にあり...

烏帽子石 山田村の山中にあり... 烏帽子石 山田村の山中にあり... 烏帽子石 山田村の山中にあり... 烏帽子石 山田村の山中にあり...

石法藏院廢跡 山田村の山中にあり... 石法藏院廢跡 山田村の山中にあり... 石法藏院廢跡 山田村の山中にあり... 石法藏院廢跡 山田村の山中にあり...

科長神社 山田村東條にあり... 科長神社 山田村東條にあり... 科長神社 山田村東條にあり... 科長神社 山田村東條にあり...

八精水 神社の境内にあり... 八精水 神社の境内にあり... 八精水 神社の境内にあり... 八精水 神社の境内にあり...

什寶雛形兜 神主の意にあり... 什寶雛形兜 神主の意にあり... 什寶雛形兜 神主の意にあり... 什寶雛形兜 神主の意にあり...

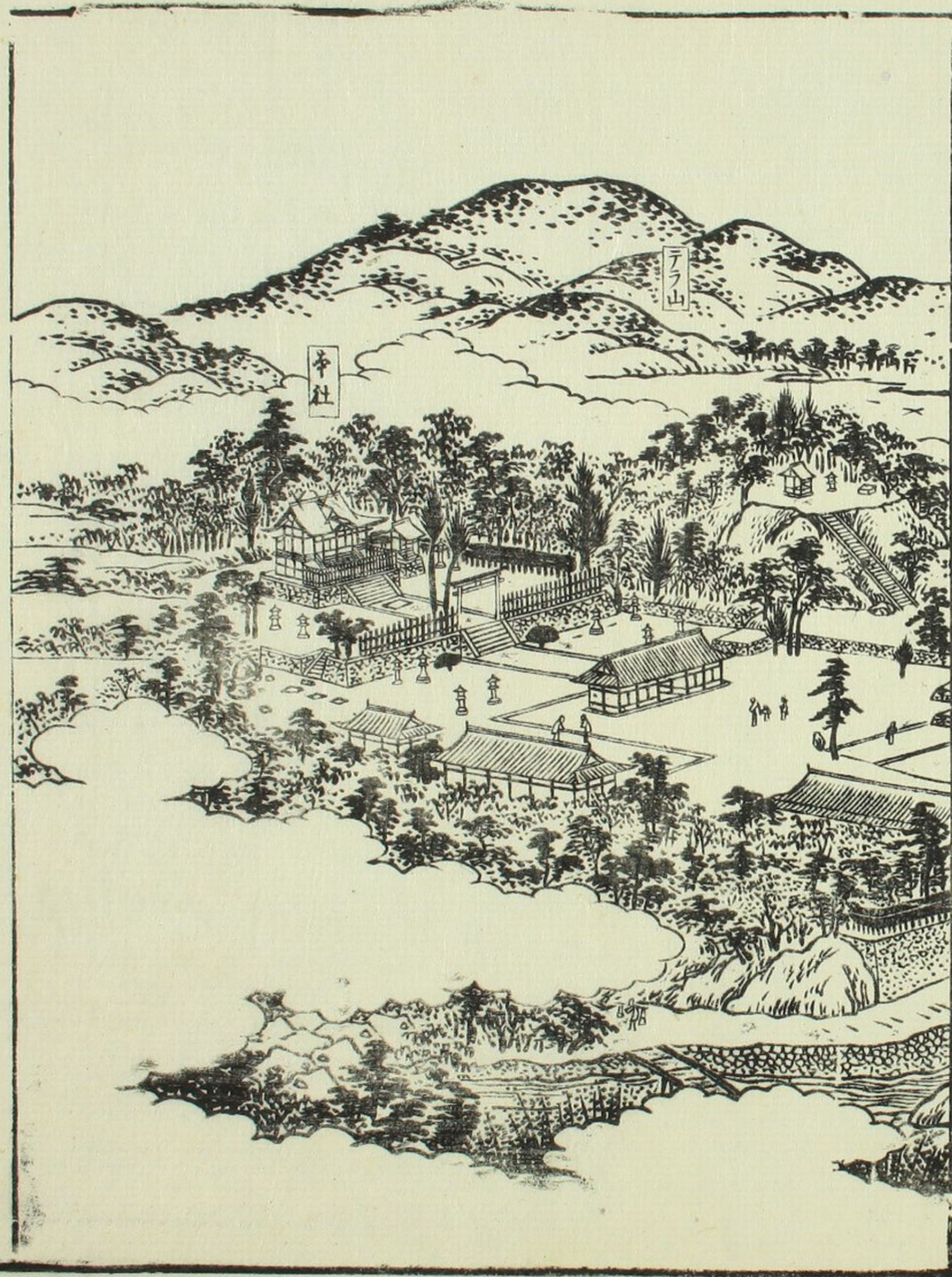
妹 子大臣塚 日所科長の神社の南にあり... 妹 子大臣塚 日所科長の神社の南にあり... 妹 子大臣塚 日所科長の神社の南にあり... 妹 子大臣塚 日所科長の神社の南にあり...

大り僅式寸斗かり... 大り僅式寸斗かり... 大り僅式寸斗かり... 大り僅式寸斗かり...

兵器を多くはくせり... 兵器を多くはくせり... 兵器を多くはくせり... 兵器を多くはくせり...

神功皇太后三尊退治の... 神功皇太后三尊退治の... 神功皇太后三尊退治の... 神功皇太后三尊退治の...

河二ノ五五



科長神社
八精水

推古天皇陵

山田村の領内小あり

御食

天智天皇

天武天皇

天智天皇

天武天皇

天智天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

推古天皇

山田鷹墓

山田村佛地寺の境内小あり又西の方小荒塚をヶ所あり

親鸞大師御腰懸石

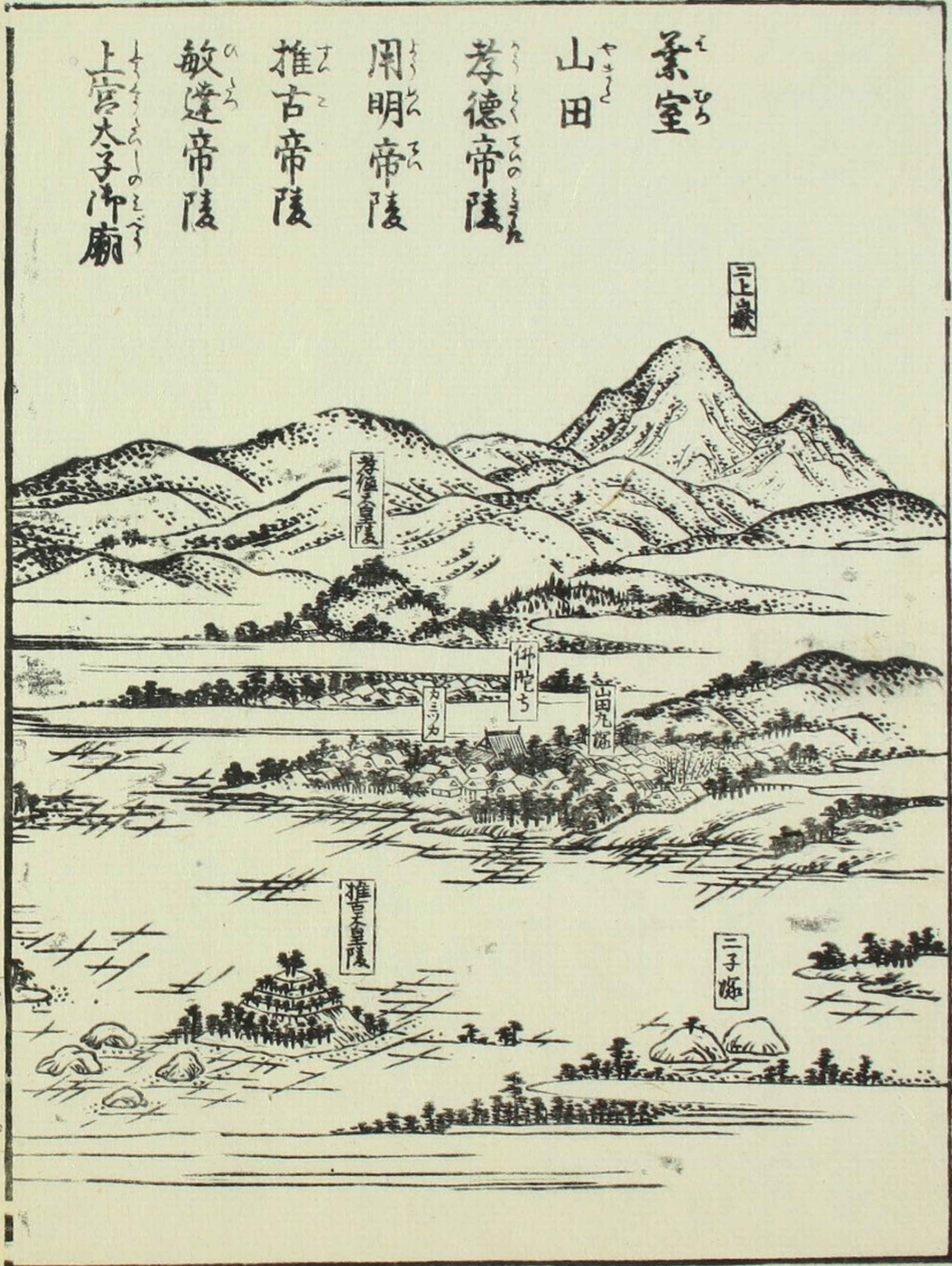
山田村佛地寺の境内小あり又西の方小荒塚をヶ所あり

名産此系州 菫草

山田村の領内小あり又西の方小荒塚をヶ所あり

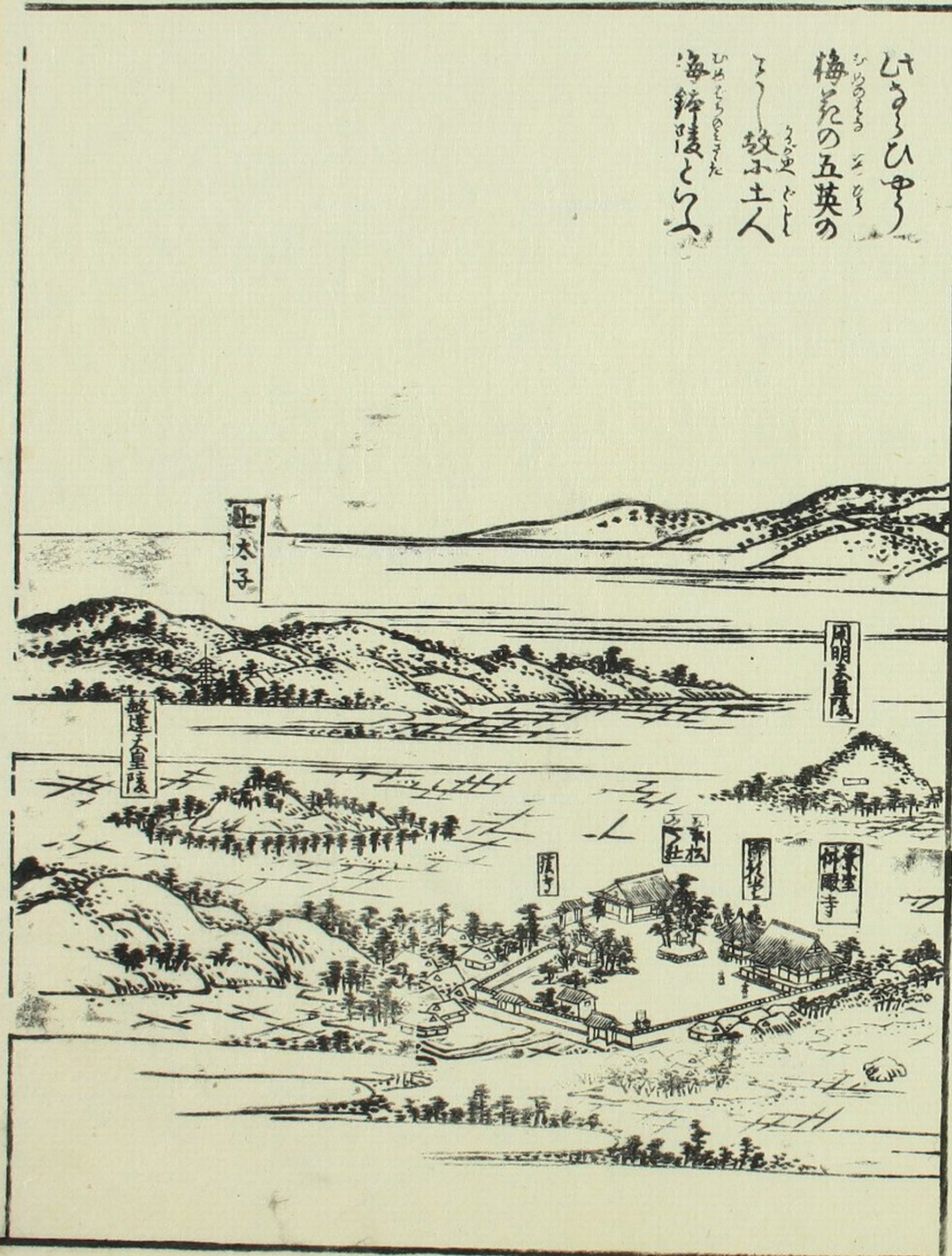
長保二年を政官符に紅紫之服堤防自存中... 菫草射策飛玉公遊り遊小陣幕

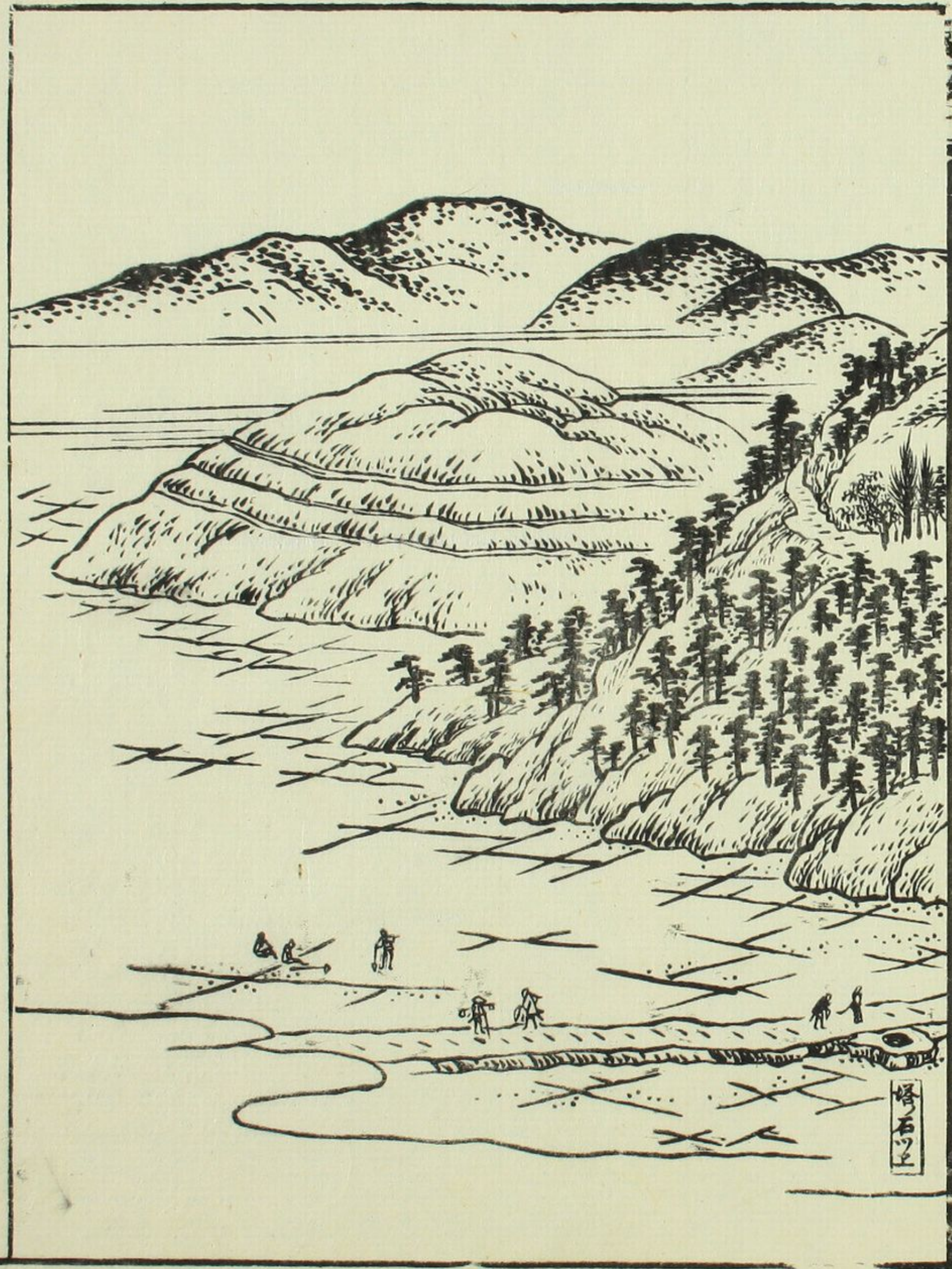
柔室
 山田
 孝德帝陵
 用明帝陵
 推古帝陵
 敏達帝陵
 上宮太子御廟



河二八

けさひや
 梅花の五英の
 故ふ土人
 海鋒陵といふ





塔石上

春日村
妙見寺



可二ノ九

妙見寺

新田村長の中中にあり禪宗

平尊十一面觀音

長六尺初御親善の権形にして日本あり

開基蘇我馬子大臣

推古天皇二十二年五月戊子朔丁未

二十日薨中興深田氏末裔尊星院殿喜雲筆悦居士

竹良卿墓

山田村領内行原山あり碑あり

其墓碑云

飛鳥潭原之朝庭左辨官直大貳采女竹良卿

所請造墓所形浦山地四千代他人莫上敦木

犯穢傍地己丑年十二月廿五日

吉繼墓

妙見寺の傍にあり字繁白山あり

陸奥國按察使兼鎮守副將軍勲四等紀氏下

維延曆三年歲次甲子朔癸酉參議從四位下

廣純之女吉繼墓誌

春日佛師故居

春日村あり天智帝此時の人なり名を鳥と跡を

牡丹嚴窟

春日村山中あり字狐塚原や八口の廣や五間斗條や

又此處あり字狐大平と八口の廣や八尺斗奥の深り限るるあり

春日神祠

春日村あり此所の生土神と云ふ春日村大和街道竹内

用明天皇陵

石川郡磯長中尾小墓塚今石川春日村あり

日本紀云

橘也母曰堅鹽媛天國排開廣庭天皇御弟
四子也母曰堅鹽媛天國排開廣庭天皇御弟
為於磐余名曰池邊雙槻宮以蘇我馬子宿禰
正其子朔立穴守屋連大連中器元宿禰
四男其曰御食炊屋姫天此皇古推子初居上宮
班鳩於豐行天皇其皇子立皇古推子初居上宮
皇子萬機四曰天皇其二皇子古推子初居上宮
女石其名曰生為田皇子立皇古推子初居上宮
村女廣子名曰生為田皇子立皇古推子初居上宮
麻公之先也女曰香手皇古推子初居上宮
夏四臣入朝而詔群臣曰朕思欲歸三寶同議
之連詔入朝而詔群臣曰朕思欲歸三寶同議
斯連詔入朝而詔群臣曰朕思欲歸三寶同議
大佛及睨大怒中豐國神敬入於神也
六佛像及睨大怒中豐國神敬入於神也
丈六佛像及睨大怒中豐國神敬入於神也
七佛像及睨大怒中豐國神敬入於神也
九月改葬于橘豐日天上皇明於河內磯長陵

敏達天皇陵

日本紀云

淳中倉太珠敷天皇敏達天皇不闕廣庭天皇... 皇弟二子也母曰石姬皇后天國排闥廣庭天皇... 愛文故以蘇我馬子宿禰為大臣連大連... 春二月國行疫疾民死者衆三月丁巳朔... 弓削守屋大連與中臣勝海大奏曰何故... 可經臣言自考由蘇我臣之於陛下疾流行國... 宜斷佛法丙戌物部弓削守屋大連自詔曰... 踞坐胡床而燒餘佛像令難波掘江是日崩... 殿既而燒餘佛像令難波掘江是日崩... 雨畧同秋八月乙酉朔己亥天皇崩云

石姫皇后墓

佛眼寺

真言宗西國順元祖の寺なり

右大將頼朝の守をまへ長八寸の金鏡法皇十九歳刺殺

五卒松植堂前小のりひり

花山法皇慈野より後入ま啼まてさうり

花山法皇慈野より後入ま啼まてさうり

海老塚

日村小のり塚上小若女若王女あり又塚原とていふハ荒塚

石川年足居

大案獲我居年羅志の若孫之率性廉勤ふして治體不

石川名足居

史大夫年足のふく名足割斷傳ふく然る小性頗漏急し

石川即女居

材和河孤を尊集集ふあり

高屋連墓

上太子の東邊藤堂の多田圃の間小あり延享年中は地

故正六位上常陸國大目高屋連牧人之墓

宝龜七年歲次丙辰十一月乙卯朔廿八日壬申葬

宝龜七年歲次丙辰十一月乙卯朔廿八日壬申葬

故正六位上常陸國大目高屋連牧人之墓

宝龜七年歲次丙辰十一月乙卯朔廿八日壬申葬

故正六位上常陸國大目高屋連牧人之墓

磯長山叡福寺聖靈院

磯長山叡福寺聖靈院 磯長山叡福寺聖靈院 磯長山叡福寺聖靈院

御墓山 皇太子 西の方太子の妃昭臣の如く石橋公の御

世徳の崩れ此の如くふりふり聖徳太子乃清基弘の如く

平氏太子傳曆日 聖徳太子 平氏太子傳曆日 聖徳太子

日本紀云 推古天皇二十九年春二月己丑朔癸巳半夜

臣及天下百姓悉長考如失愛兒而鹽酢之味

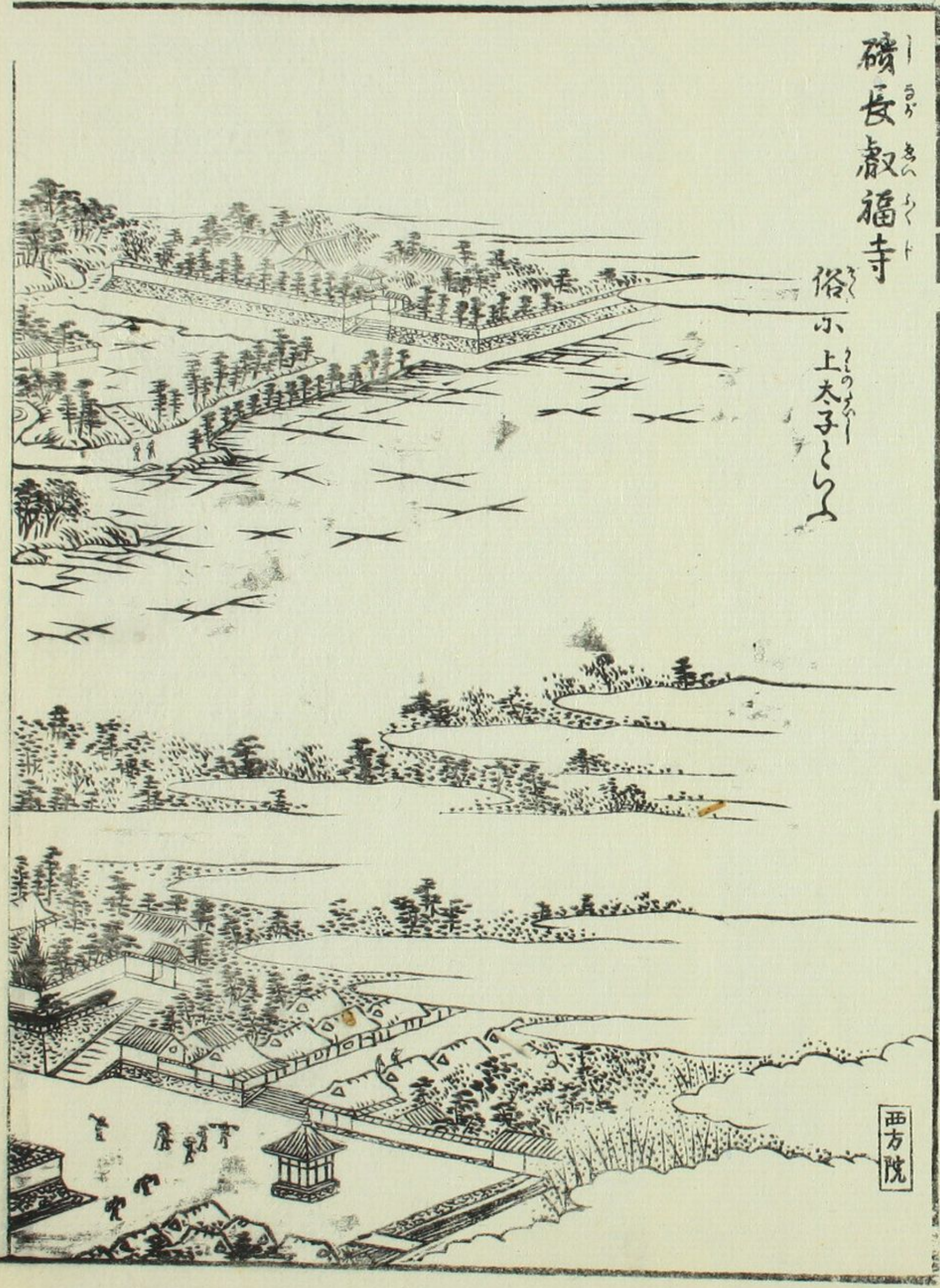
廟中二十句碑文 願主ありて廟中の東に建つ又窟中の東の

大乗本 左子自稱 願主ありて廟中の東に建つ又窟中の東の

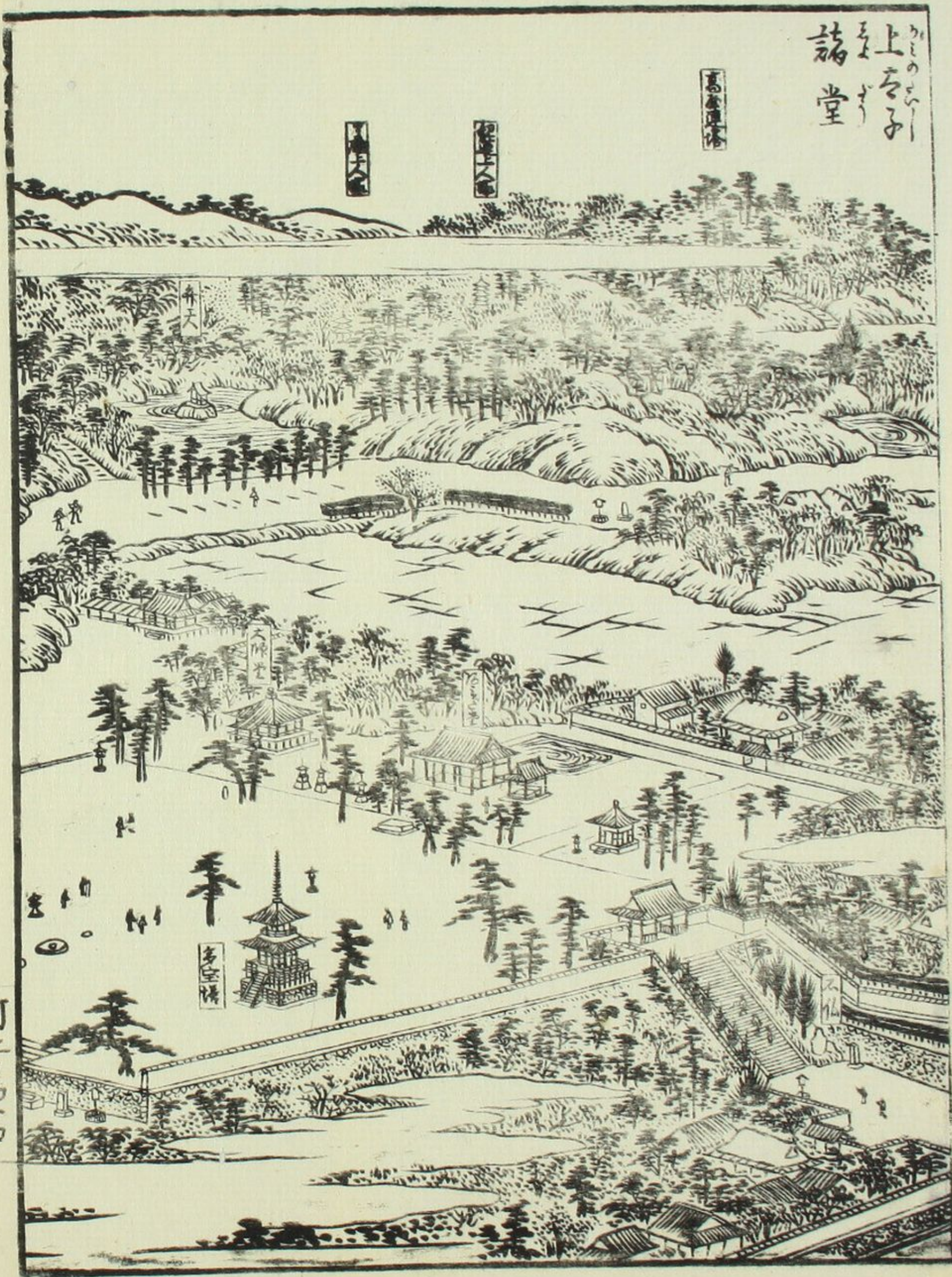
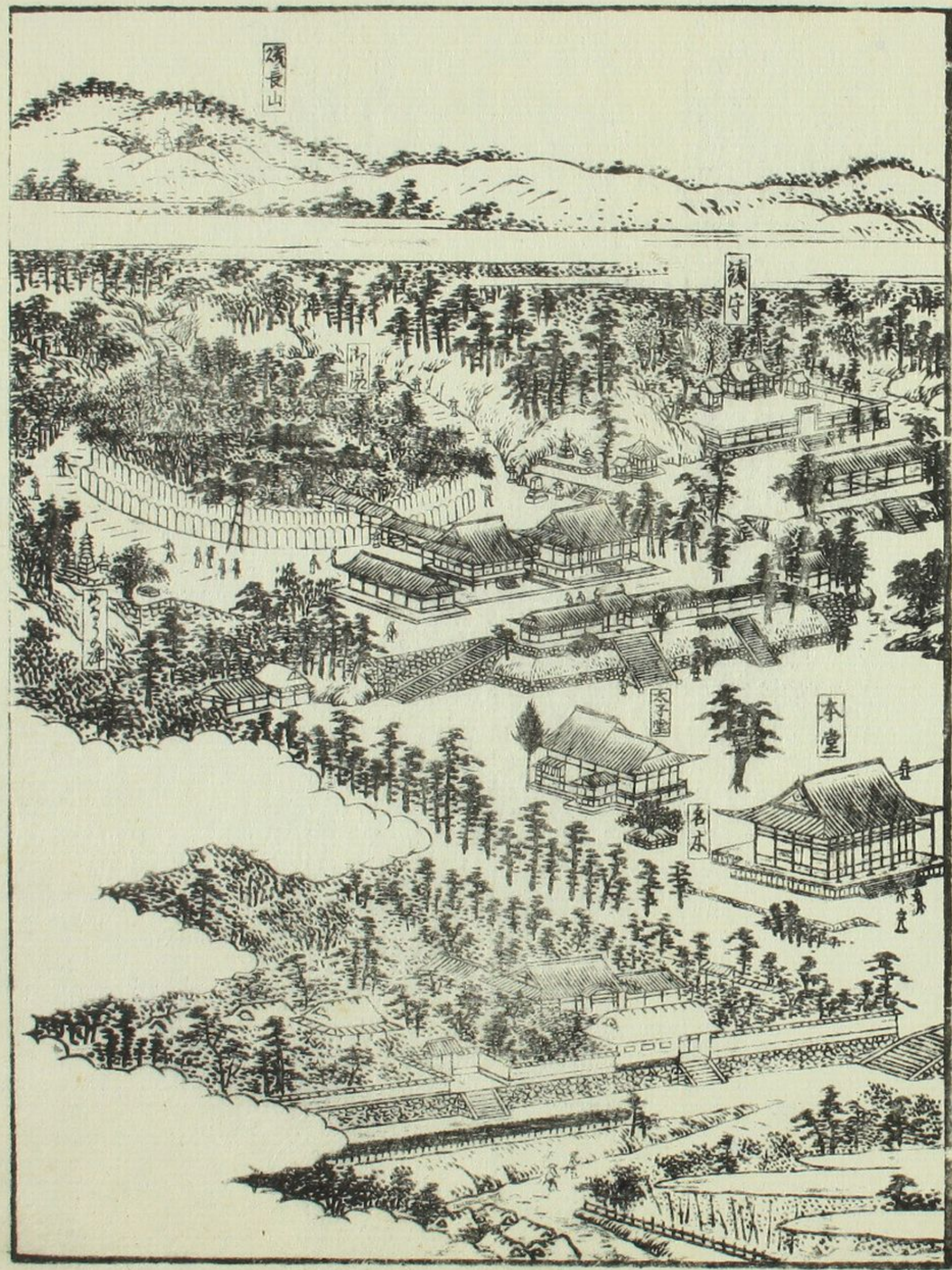
け構樹の生る人今一平餘年のま杖を歴せり
 結界石四百九十軒建の年兼累りて朽缺しぬを
 享保年中四方より雲附して日く石坪小浄土の
 鑄又圓の外側小界石を建てる國之此浄土の
 金堂 本堂如意輪觀世音菩薩佛師作長三尺脇土愛保不動
 多寶塔 金堂の西南あり東面釋迦三尊佛西面金剛界大日如來
 聖靈院 長五尺寸許又用明天皇浄土の時を赤夜乃上小
 浄土堂 日所あり本堂と浄土三尊の安住と弘法大師神下
 上御殿 止段の地ありを子二十五兼中浄土の相なり
 其外田廊二天門鐘樓等も俱小再真の建なり
 浄土堂 高貴寺の浄土の安住と弘法大師神下
 浄土堂 日所あり本堂と浄土三尊の安住と弘法大師神下
 浄土堂 高貴寺の浄土の安住と弘法大師神下
 浄土堂 日所あり本堂と浄土三尊の安住と弘法大師神下

磯長敷福寺

俗小上太子



西方院



河二ノ四十四

大師堂 全堂の東にあり、弘法大師六十歳時於此に作すなり

常光院 日所あり、念佛堂也、佛を奉る所、弘法大師三十三歳時於此に作すなり

普門石 金堂の西にあり、普門菩薩の修験者の修験の所、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

鎮守九所権現 清廟の東にあり、中央熊野、辨財天、巖倉、八幡宮、春日、西の方平頭天皇

兩帝塔 後醍醐天皇、後深草院の兩帝法華經弘書寫し、弘法大師の修験の所

兩門院塔 希大宮院正應五年十一月九日、遊義門院、徳治二年、九月六日、西門院の骨をう、小塔、弘法大師の修験の所

忍性上人塔 此の東にあり、又弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

石塔律院廢跡 右之將頼朝の清基所、政子、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

轉法輪寺跡 寺廟あり、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

燈燭基石 金堂の東にあり、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

不動石 二王門の下、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

碓礪碑 出現所、清廟の西にあり、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

吾為利生 出彼衡山、入此日域、降伏守屋之邪、見終顯一佛、威德於處々、造立四十六箇之伽藍、比度一十三百餘僧尼、制記法華勝鬘維摩、等大乘義疏、斷惡修善、之道漸以滿足、今大義、吹河内國石川郡磯長里、有一勝地、尤足稱美、故爰募所、已畢、吾入滅以後、及四百三、十餘歲、此記文出現、哉、爾時國王大臣發起、寺塔、願求佛法、耳

良觀上人石塔 清廟の東にあり、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

中門古礎 二王門の内、廿四斗、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

關伽弁 二王門の下、西の方、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

隔夜堂 二王門の下にあり、石佛、大日尊、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

絶藥院跡 左子村、西の方、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

市場舊跡 左子村、市場跡あり、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

南大門 金剛力士の二王、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

細の入りあり、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

左子村、西の方、弘法大師の修験の所、弘法大師の修験の所

神勅法の極子の

五字ヶ嶺 志山の峯なりし由縁

夫志山の峯創ち 推古天皇六年 皇太子七歳の秋甲斐國
司秦川勝よりまうし 驪駒小御し 調使九を人を遣者し

日本の靈山精舎筑てし くらめぐり 太子清祿歌し

太子傳 太子とあふふとほれの里駒小乘乃を今世と云ふ

中不二巻とあり初く吾妻の國々瓜めぐり 北陸道小のを越後の國
神原浦派應りし時海を此石小策と云ふし 一首の歌を鶴ゆし

よ後の代小波と云ふもくあつてもわらぬ水のたのみ

あつとそれより歌浦と云ふや 三日の間小日本六十六箇國二島里と
二ふ七百二十所人の数を男子十九億九万四千五百廿二人女子と二十五億
九万四千八百二十人男女合々四億五億八万八千九百九十八人あり
海内派巡視し終りしと云ふ益あり一は國々の境派と云ふが二ふ

伽藍創建の勝地をえりしを二ふ清墓所を定老人が為二百ちり
面の別ふ之和の岡半宮小還御し終りし紀行派著し 天竺より

これを雲と紀せしと云ふ時富士峯はく蹄を止光眸をめぐりし
畿内河内のみ野々五色の瑞光天女輝く今名五字峯と稱あり實に

過去七佛持法輪の砌天下の勝地なり 皇太子驪駒より下り終りしを
今に駒岩村やいふ厥后 推古帝廿七年清墓派築れ同廿八年

母后と云ふ墓を終り其雲龍の轅をけりしと云ふ樟の大樹を成りし
大乗本やうし同廿九年二月太子班鳩宮ありて祀し共小薨りし

遷り二尸もさふ藏せりし三骨一廟三尊位を舞に東に清文帝
用明天皇の陵あり其良ふ孝德帝異れ 推古帝坤小敏達帝

の廟陵巖をくくられ瓜寺僧踏く梅花五陵せりし其外大馬走人の
丘墓多しし清墓山派建させりし時詔して守戸の僧坊十宇あり

六所の地派宛りし其後七堂伽藍を建営し 若干の寺庵と

寄り入寺に觀福寺中歸一 推古帝より 法宇多院まじく

四十代の事代々隆幸の車駕に先立ちし後優婆塞も晋門石を

まじく行法練修し弘法大師も一百日の奉籠ありて結界石と建らば

奇石の碑銘焉強の靈文頼朝塔政子墳良親願蓮二師の墓不動石

關伽弁を其外名蹟より實上高麗の信惠慈々上宮を子乃

薨御を聞くと大い悲しむ大日本國に聖人あり上宮豊縣耳

皇子や稱美と尚もみか宏徳の顯然と尚もこの也

當山竹實 安樂行品一卷 推古帝清宸筆 南無佛御影一軀

普門品一卷 用明帝清宸筆 高麗笛一管 子清西持

大穴笛一管 用明帝清宸筆 弘法大師筆 金剛十面觀音 弘法作

心經 弘法大師筆 彌陀之記文 滿願寺 金剛不動尊 弘法作

五像彌陀 安門師作 金剛不動尊 弘法作 金剛多門天 弘法作

大黒天 傳慶大師作 天竺佛揚柳觀音 阿子白檀 七宝花卷

唐佛金銅如意輪 獅子の唐書 金剛愛染明王 大師作

馬郎婦觀音 馮師をりて成て婦人の花を章點て右を馬郎に

能作生王 弘法大師 坐像彌陀 毘首竭磨 金剛不動尊 弘法作

大乘本太子 孝養の 南無佛御影二軀 伎樂面同樂器

七寶念珠 佛舍利一粒 欽明帝 佛舍利二粒 推古帝

佛舍利四粒 昔の塔乃真柱より出現し建曆元年四月二十三日

平王 金堂より例年二月又下 名月王 明王

法華八軸 一品宮内親王常子清等外題を 後西院清宸筆

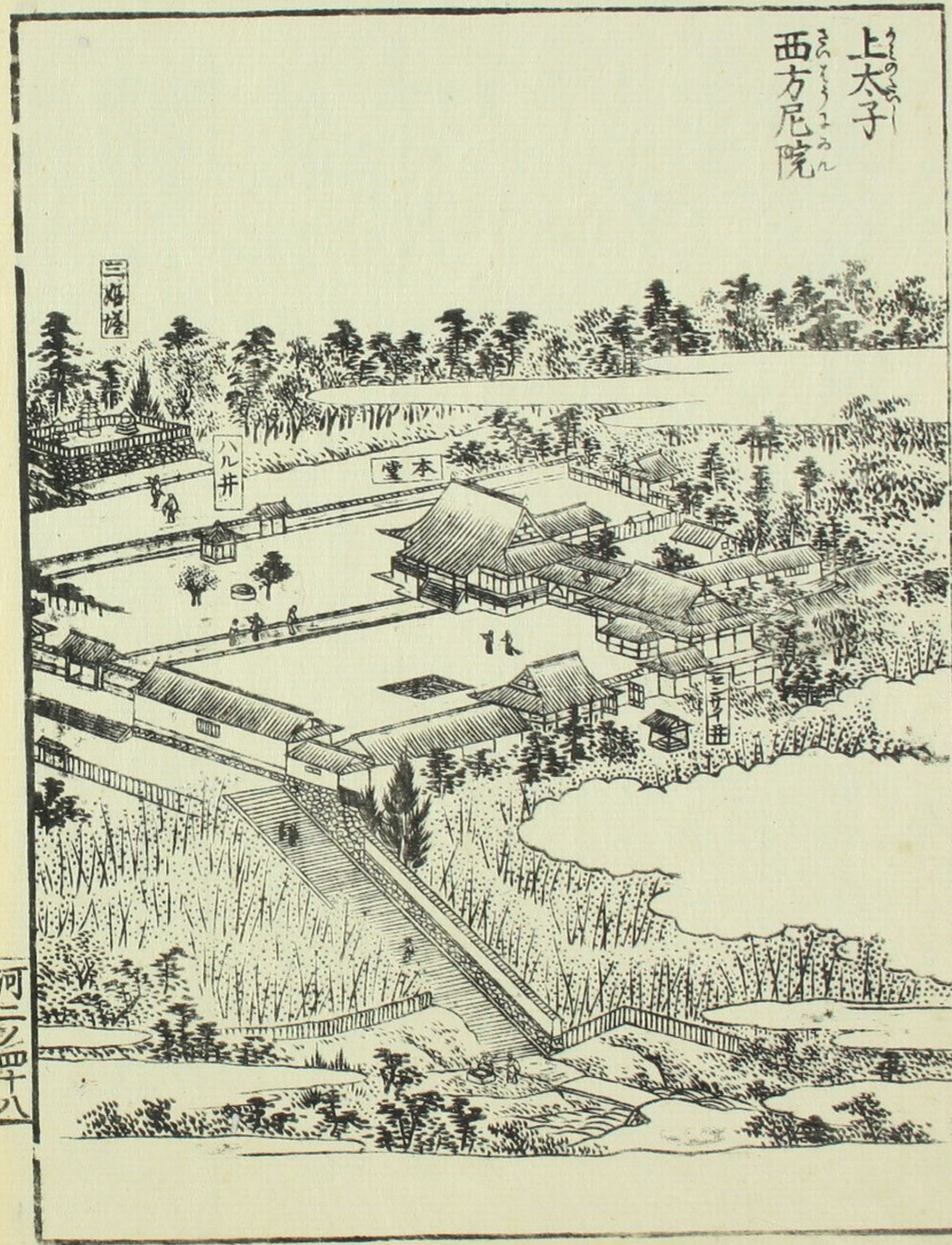
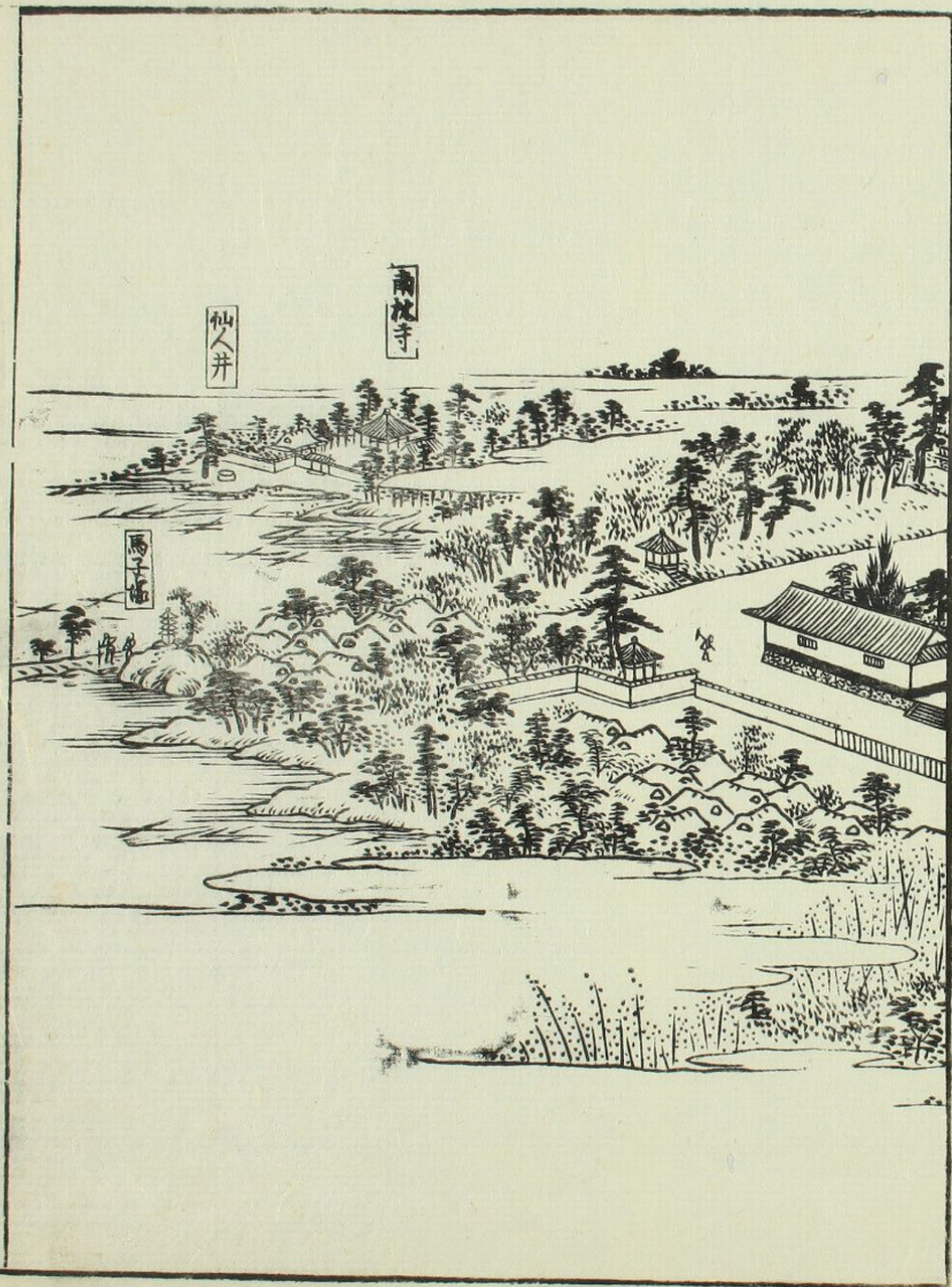
尊勝多羅尼 聖寶上人 筆あり

南無佛像 太子御筆 二臂如意輪 金剛筆 不動尊 弘法筆

皇太子繪傳 土佐將監筆 太子繪傳三卷 外題一段宛宮方核取

公卿方五十人の筆 馬上太子 紐川氏綱筆 守屋退治

別名別紙あり



河二ノ四十八

太子四十二歳御影 太子清自筆 尊勝曼多羅 弘法筆

弘法大師影 自筆 太子四十二歳攝政像 撰我臣 十三佛

三千佛 佛名會本有 涅槃像 六臂如意輪 代々繪旨

帝御代々尊群 青蓮尊純 法親王筆 當山古伽藍圖畫

西方尼院 上をふ敷福寺南上段の地ふあり

本尊阿弥陀佛 聖德王の清化長三尺五寸辨方の方若子二葉所託之の方尊筆

当年蓮華新娶して新創ありし所を年久しく荒廢しけり不寛永

千載井 本堂の南 赤染井 骨堂の下 雲井 南寺の蘇我

骨堂 本堂の南 親名堂 南の方ふあり 二尾影堂 本堂の北の方ふあり

三姫古墳 西の方院南の方外ふあり 三尾影堂 追新造迄

太子傳云

皇太子清自出誕の時百官をくを奉りて紫の弓蓮の矢矢をのりて天地四方放射してめで令御聖王天長地久玉体安穩宝祚延長と祝ひあり

いづり宮殿を飛の女を擲んて清めめりてとて百人の女の中より三人をくひし出づ一美女玉女の如く成りて光の徳ふより其名を月益姫日益姫玉照姫とてとるは清めめりて不定の八月益姫と申す今年十七歳蘇我大兄の如くを免あり日益姫と生年十八歳あり

馬子大兄殿 西の方院を所計東の方 仙人嶽南林寺 西の方院の南ふあり 獻福寺古伽藍 講堂の旧跡あり

本尊阿弥陀佛 坐像式尺五寸脇土親善地蔵像ふ 毘沙門天 坐像三尺五寸 弘法大師 増城修の付儀長靈廟一聖

星 神興の岡基を和列法燈より知くこふ徳とてめ苦徳徳修の如く後水尾上皇

仙人窟 境内ふあり方一丈五尺あり 仙人居の所なり

甘露樹一株 自裁あり上皇の宮の時

天造石像大黒天 什寶

五彩五輪塔婆 厨子小入表麻計六羅漢八祖 脊ノ麻小如赤荒神 多門文吉祥天女

北斗七聖九曜壁極細画北典司の筆々中に五色の佛舍利明惠上人表目御書
 佛舍利を聖徳太子和列法想より取りて板に作りし佛舍利授りて作りし
 舍利塔一基後水尾法皇御寄附 法皇宸影林丘寺宮光太子内親王の丹まなり箱の表懸の葉を玉加の子書し
 祇陀名碑 法皇宸指 法皇宸詠和歌一幅
 夕ぐれに夜半さしひみりぬ 芳世の山小法師の御書
 皇太子二十五歳朝 清自筆 月十六歳清朝 妹子女皇自筆
 此非教傳ありて不畧也

河内志南園舎卷之貳

河内志南園

